

日本リウマチ学会女性会員
支援推進小委員会の取り組み

男女共同参画に関する
アンケート結果について

日本リウマチ学会女性会員支援推進小委員会

利益相反の有無：無
本発表への利益相反はありません

内閣府男女共同参画室

- 女性の活躍促進
- 女性の活躍状況の「見える化」
- ポジティブ・アクション
- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）
- 女性に対する暴力の根絶
- 男性にとっての男女共同参画
- 地方との連携
- 災害対応

内閣府男女共同参画室

- 女性の活躍促進
- 女性の活躍状況の「見える化」
- ポジティブ・アクション
- 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）
- 女性に対する暴力の根絶
- 男性にとっての男女共同参画
- 地方との連携
- 災害対応

ポジティブアクションとは？

- 「社会のあらゆる分野において、2020年までに、指導的地位に女性が占める割合が、少なくとも30%程度になるよう期待する」という目標（平成15年6月20日男女共同参画推進本部決定、『2020年30%』の目標）を達成するため、女性の参画を拡大する最も効果的な施策の一つであるポジティブ・アクションを推進し、関係機関への情報提供・働きかけ・連携を行っている。
- 社会的・構造的な差別によって不利益を被っている者に対して、一定の範囲で**特別の機会**を提供することなどにより、実質的な機会均等を実現することを目的として講じる**暫定的な措置**（クォーター制など）

多くの企業（約1/3）がポジティブ・アクションを推進を宣言
お茶の水大学、東京学芸大学、**東京医科歯科大学**も宣言

女性会員支援推進小委員会

- 2014年4月 女性会員支援推進小委員会招集

- 今後の活動の礎となるべくアンケート調査を実施

方法：日本リウマチ学会事務局の協力により学会員全員にメールでアンケートを依頼。

WEBで 選択あるいは記入方式で行った。

アンケート素案は国立成育医療センター金子佳代先生が作成、委員会のメンバーで検討し、理事会の承認を受けた上で実施した。

JCR女性会員支援推進小委員会 男女共同参画に関するアンケート調査

目的: 女性会員の現状や男女会員の意向調査を行い、学会が支援すべきことの礎とする。

方法: 日本リウマチ学会事務局の協力により学会員全員にメールでアンケートを依頼。

無記名でWEBで選択あるいは記入方式で行った。

アンケート素案は金子佳代子先生(国立成育医療センター)が作成、小委員会のメンバーで検討し、2015/1/31理事会の承認を受けた上で実施した。

実施期間: 2015/2/2 ~ 2/20

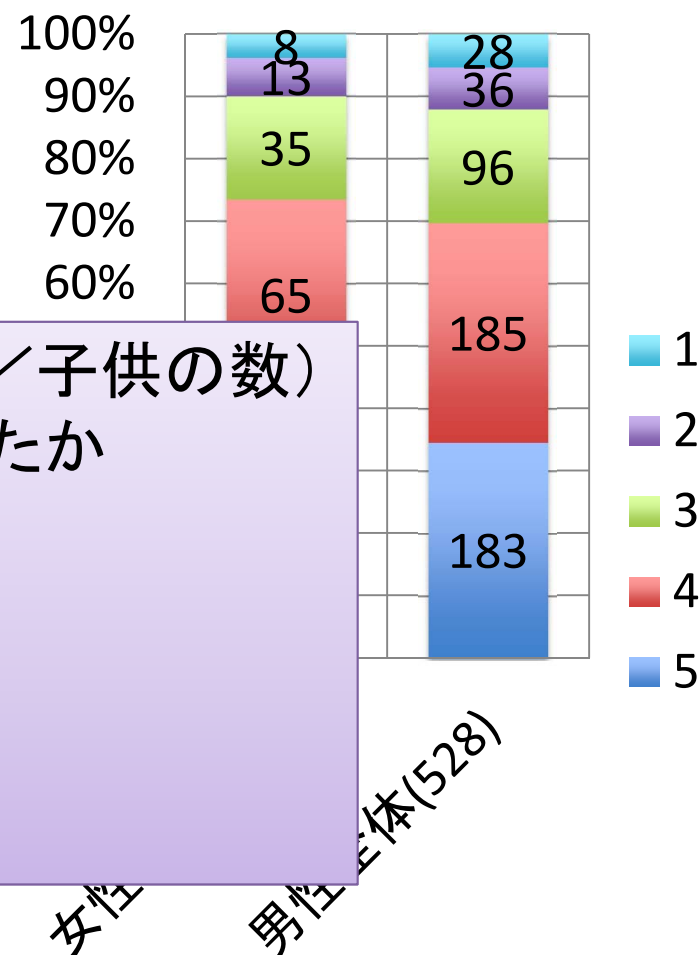
男女共同参画に関するアンケート調査

例) リウマチ学を専攻した理由は何ですか？

(数値が高いほど強く思う)

A) 学問として興味があったから

○ 1 ○ 2 ○ 3 ○ 4 ● 5



一般事項(性別／卒業後年数など／婚姻／子供の数)

リウマチ学の専攻理由／専攻してどうだったか

勤務形態

ワークライフバランス

キャリア形成

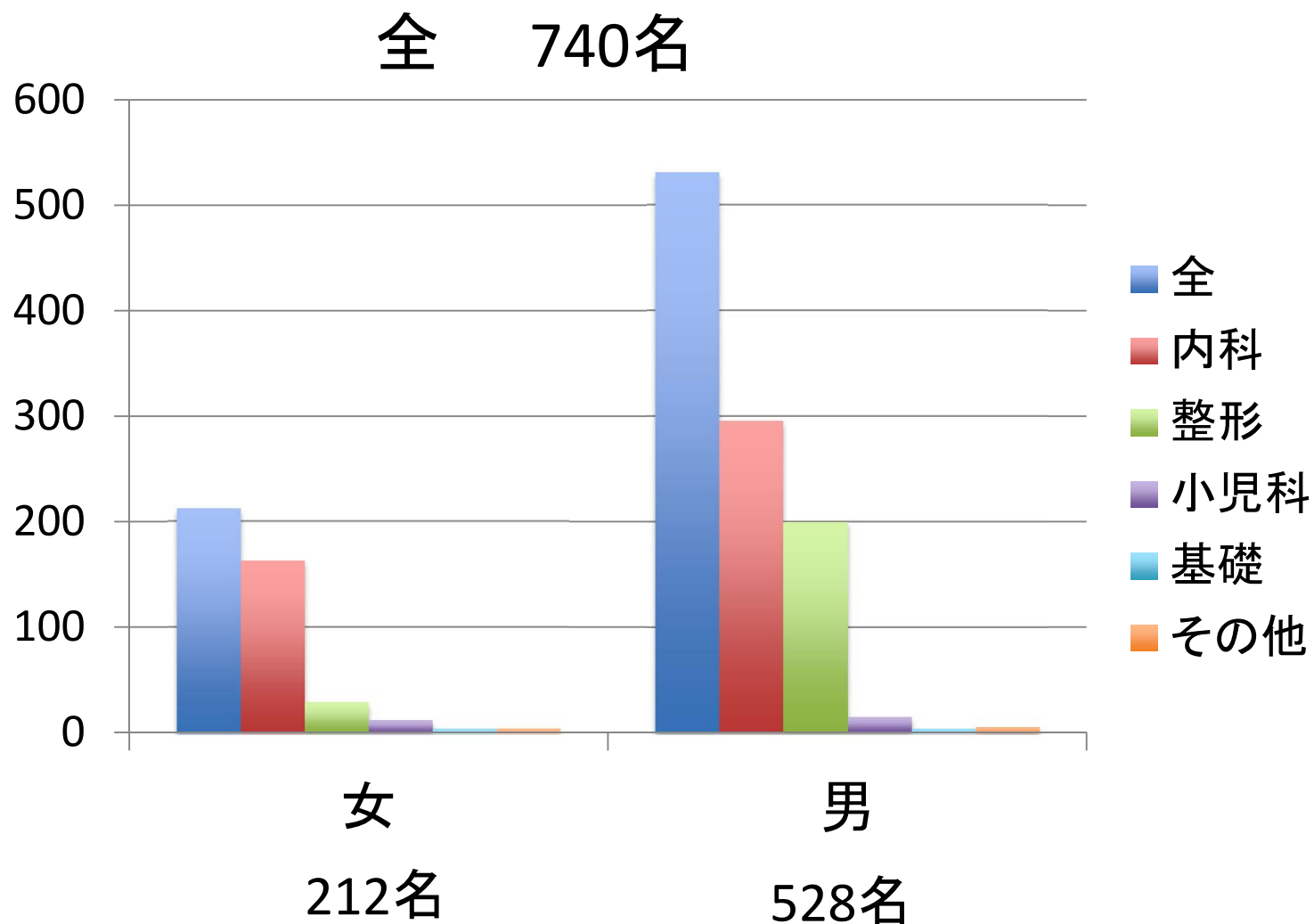
リウマチ学会専門医制度

リウマチ学会における男女共同参画

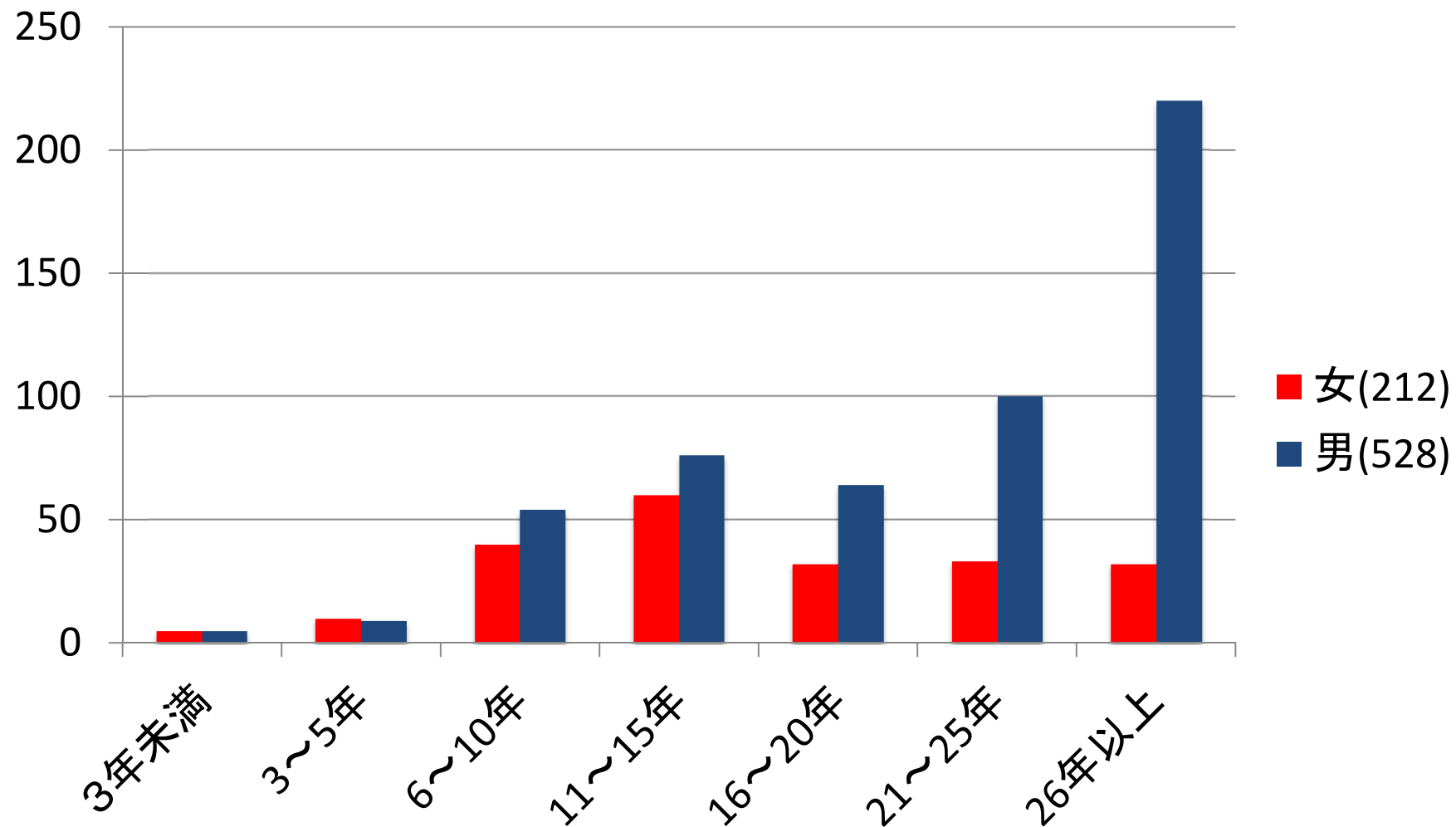
日本リウマチ学会女性会員支援推進小委員会 男女共同参画に関するアンケート(2015年2月)

	女	男	合計
アンケート回答者	212	528	740
医師学会員における回答者率	18.3%	6.6%	8.0%
JCR専門医回答数	143	446	589
専門医に占める回答率	24.3%	11.2%	12.4%

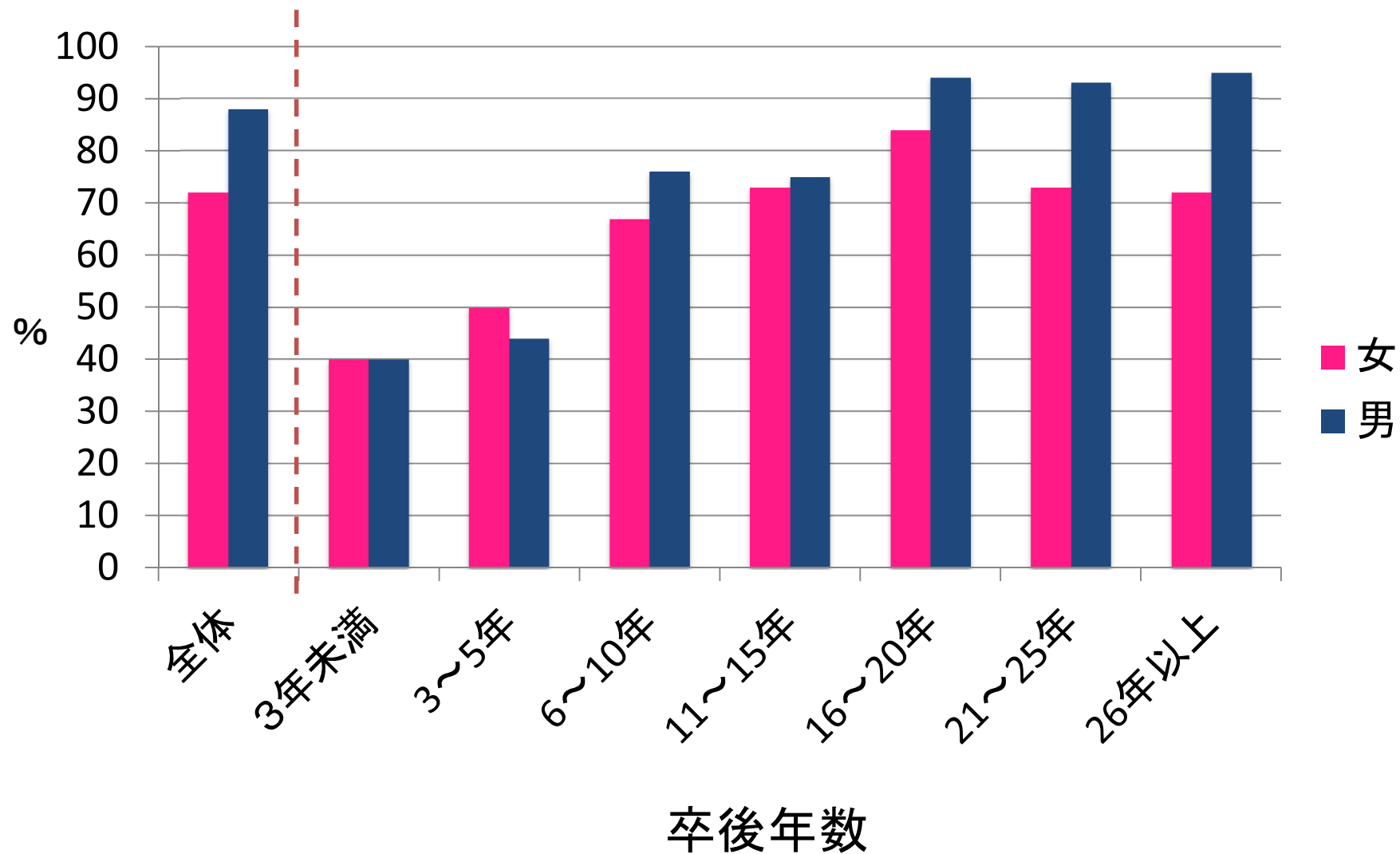
アンケートに回答者



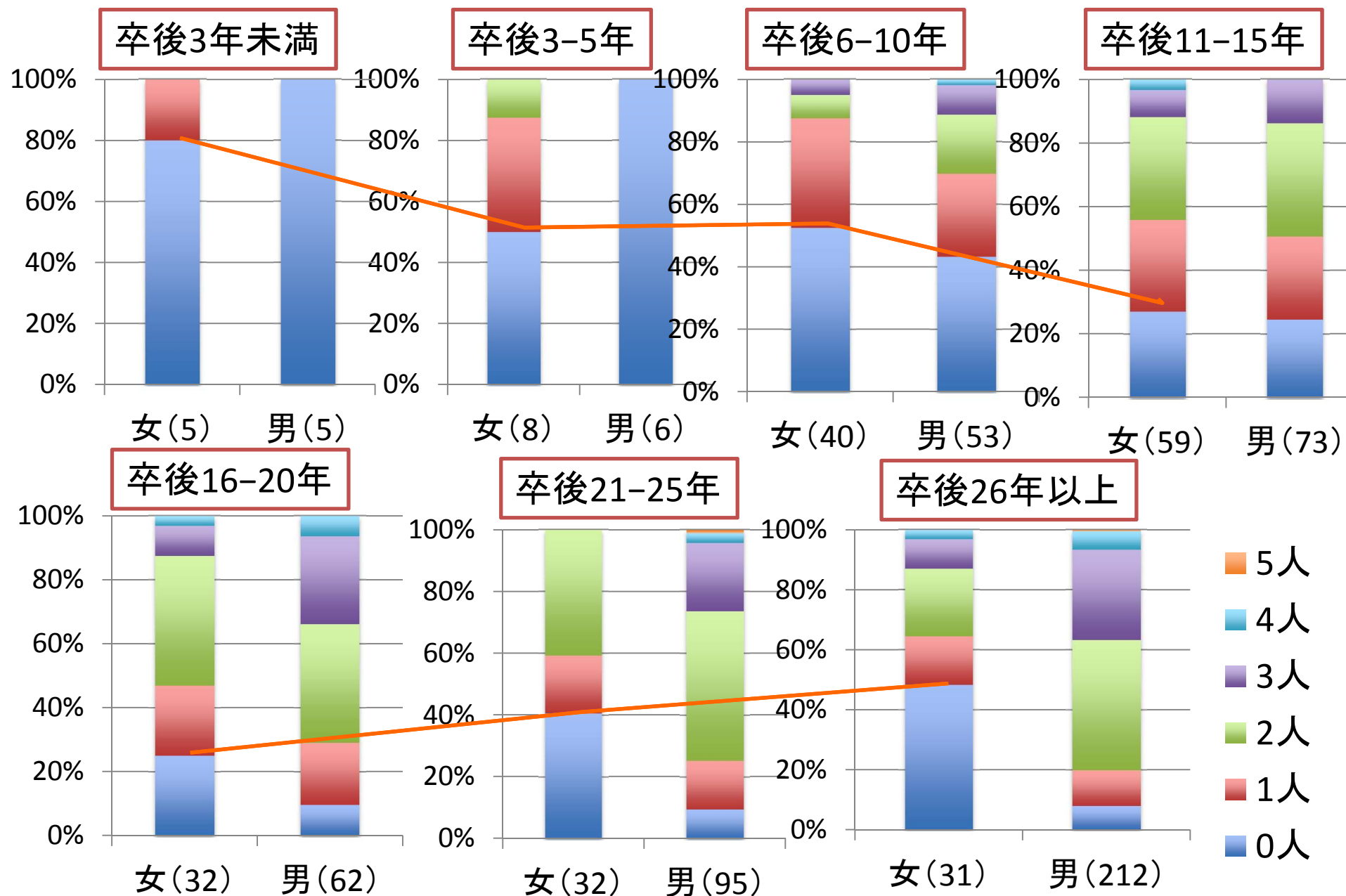
アンケート回答者 卒後年数



アンケート回答者の既婚率



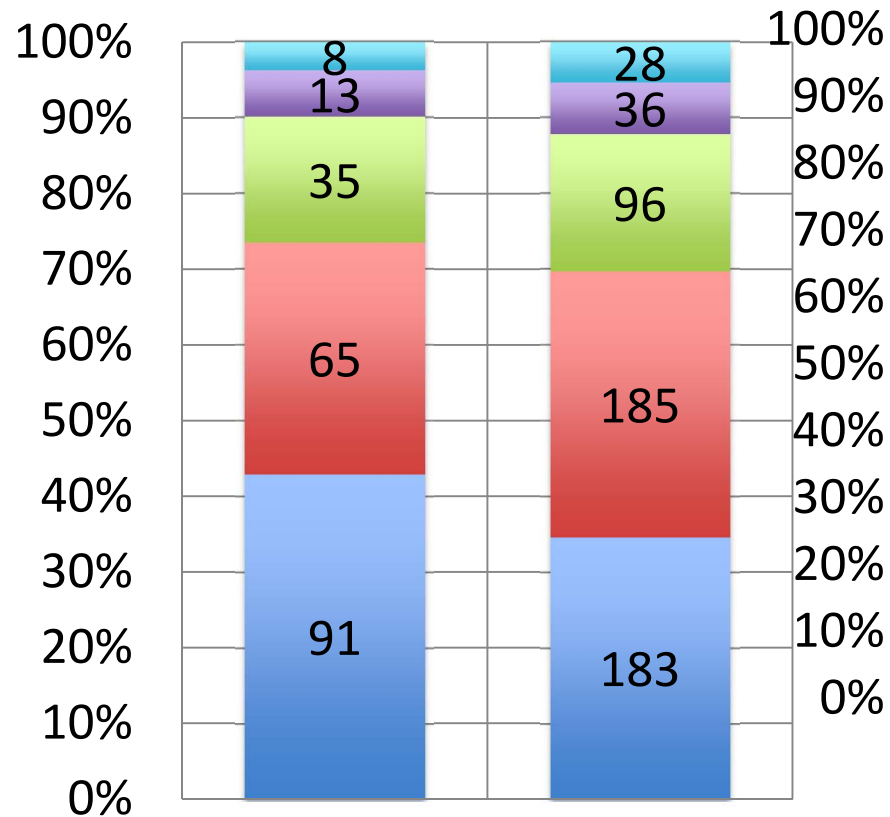
卒後年数と子供（妊娠中を含む）の人数



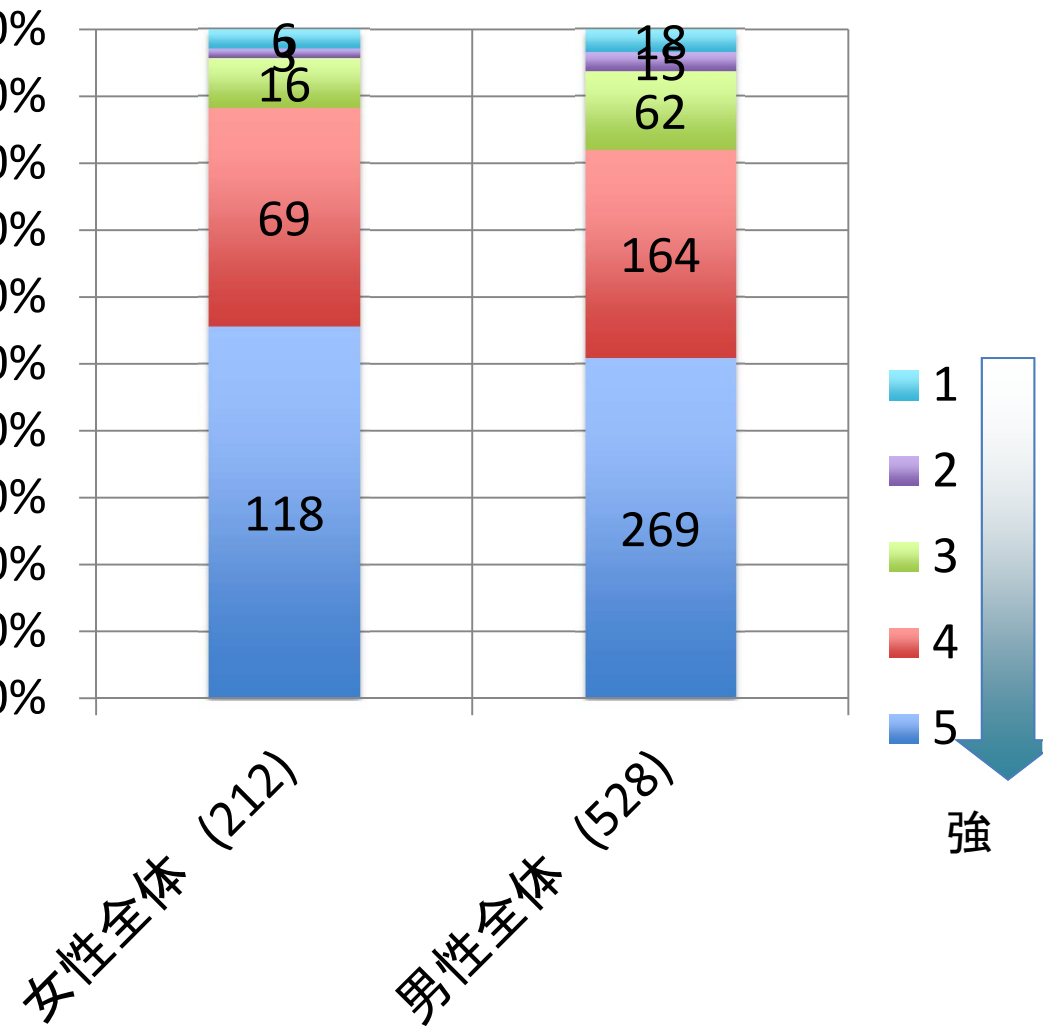
質問4／5

A 学問として興味の強度

質問4 リウマチ学を専攻した理由



質問5 実際に選んでみてどうですか

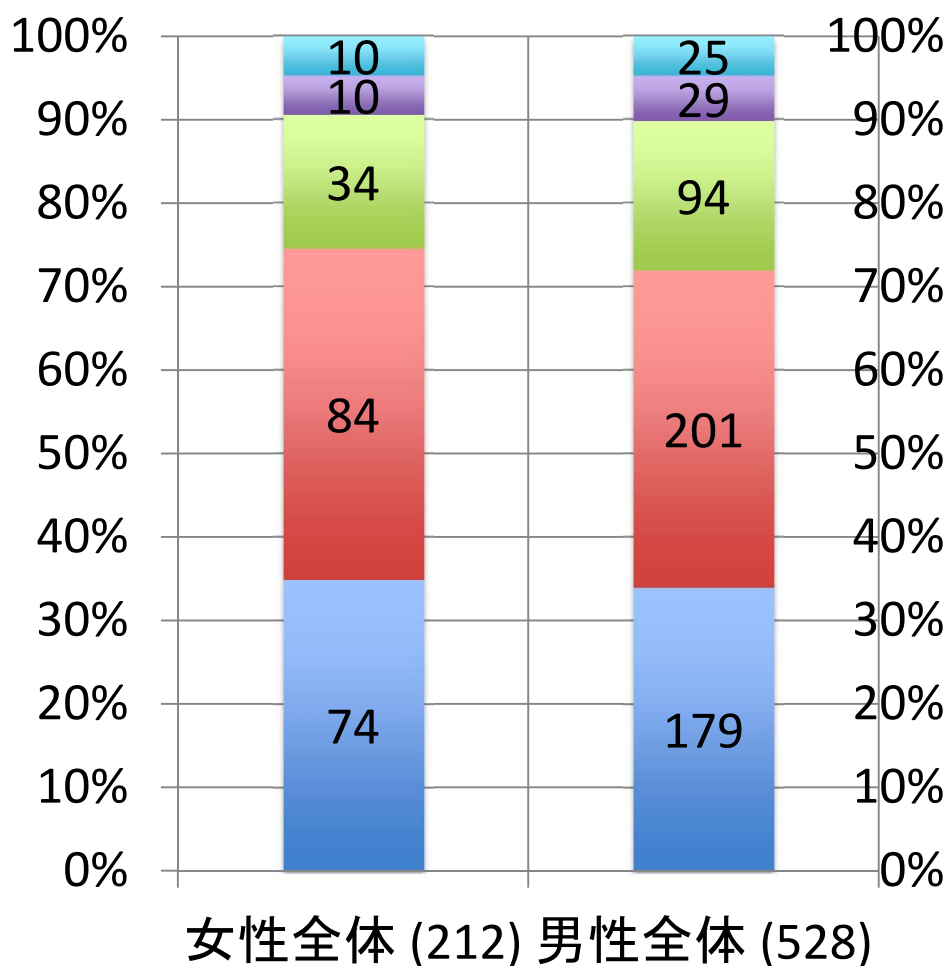


強

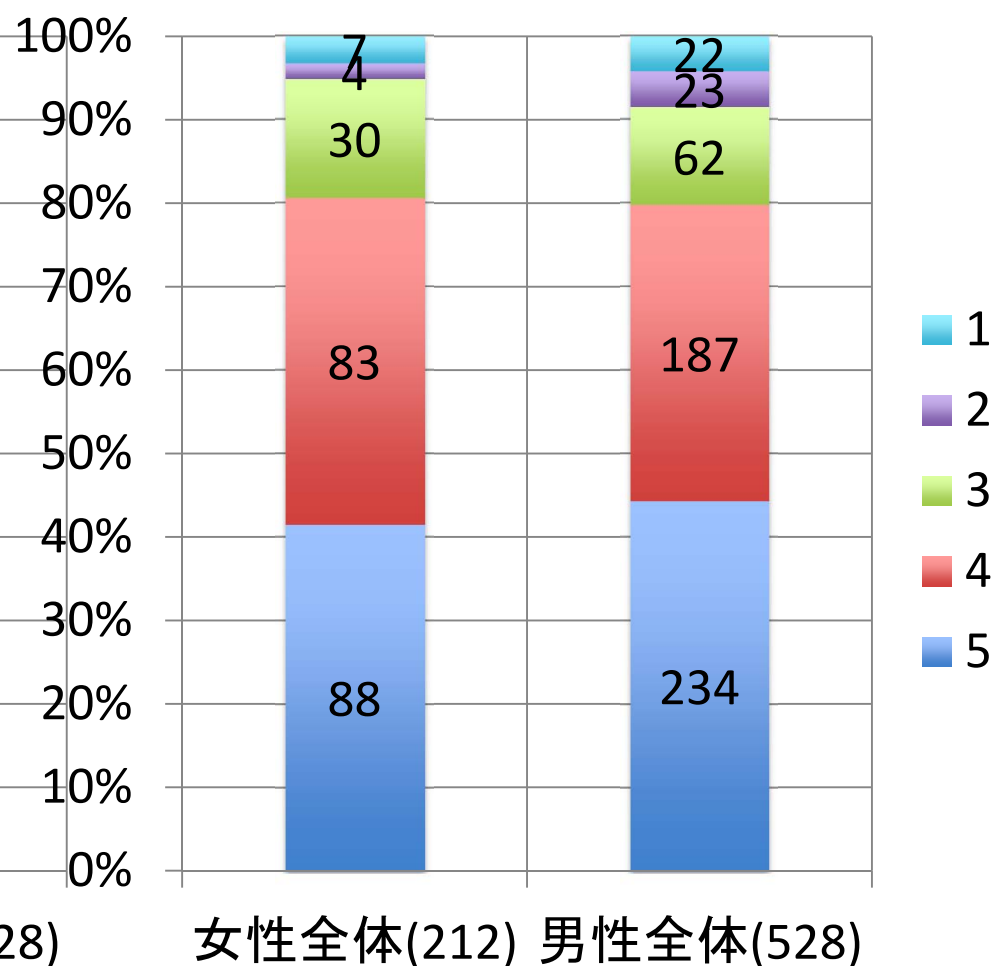
質問4／5

B 臨床にやりがいの強度

質問4 リウマチ学を専攻した理由

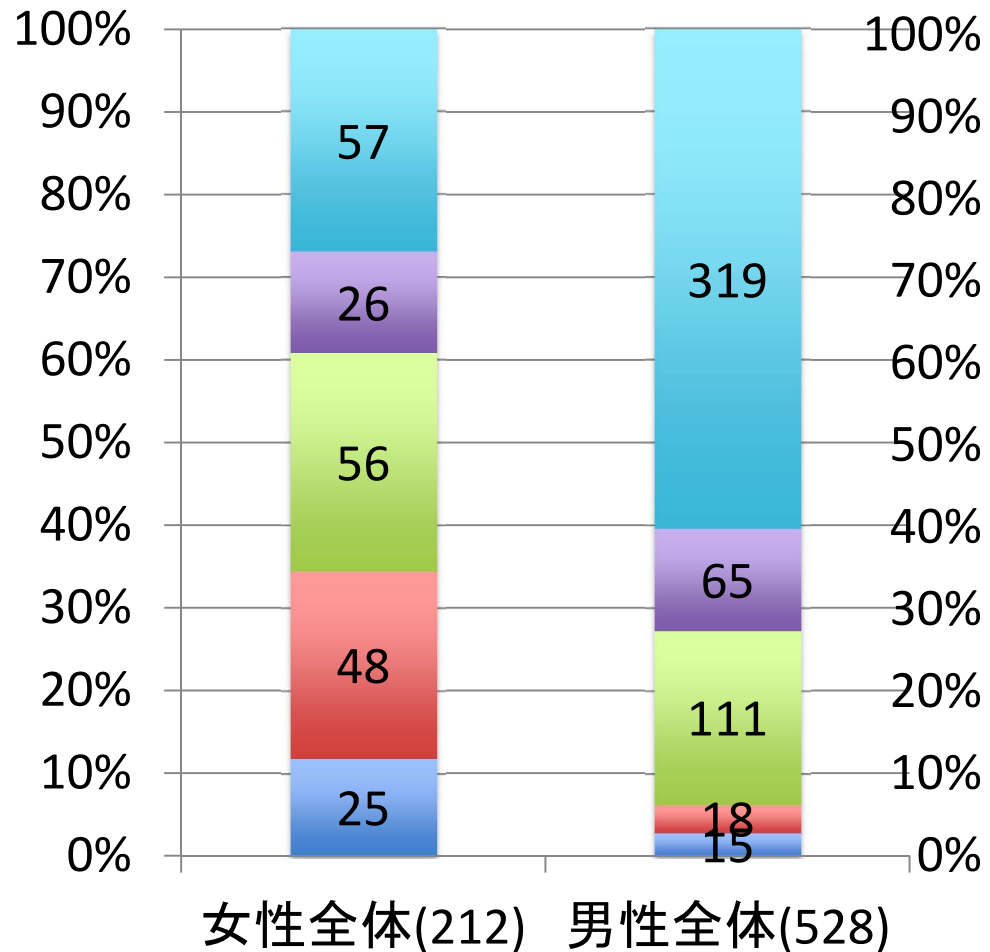


質問5 実際に選んでみてどうですか

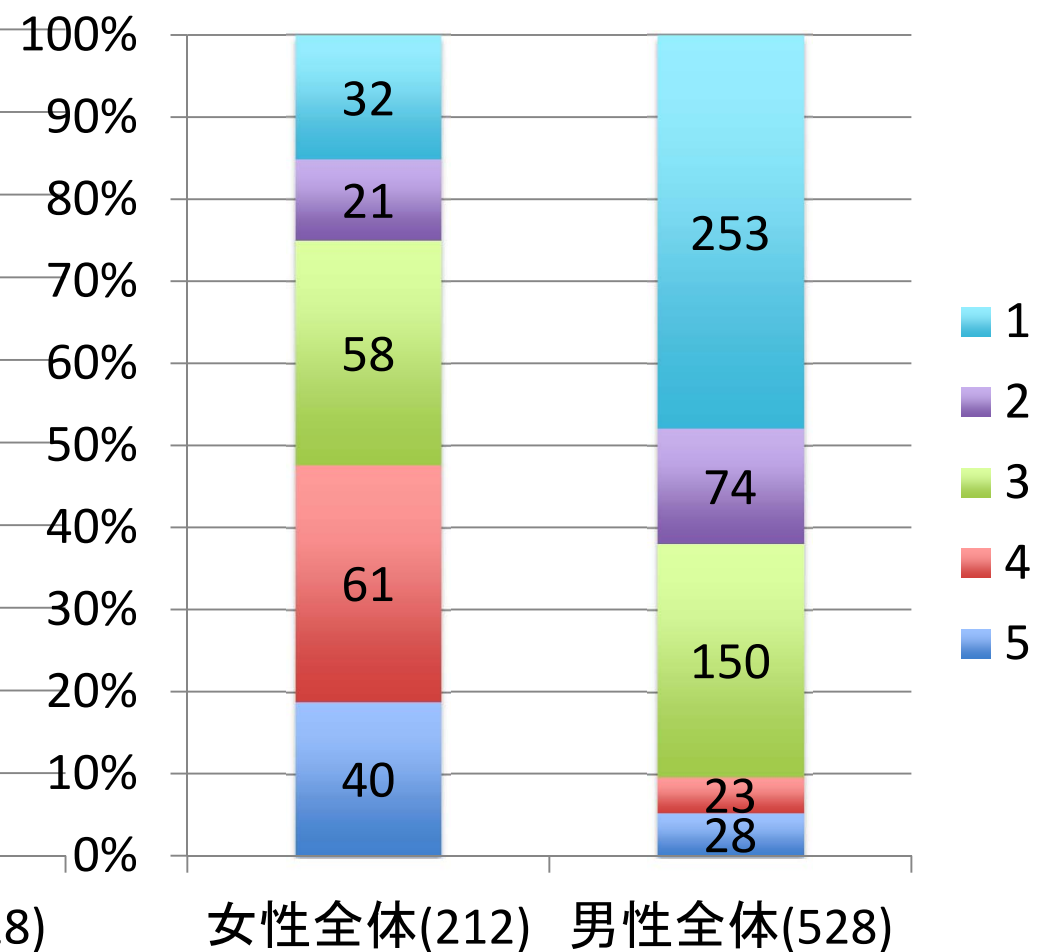


自分の性別

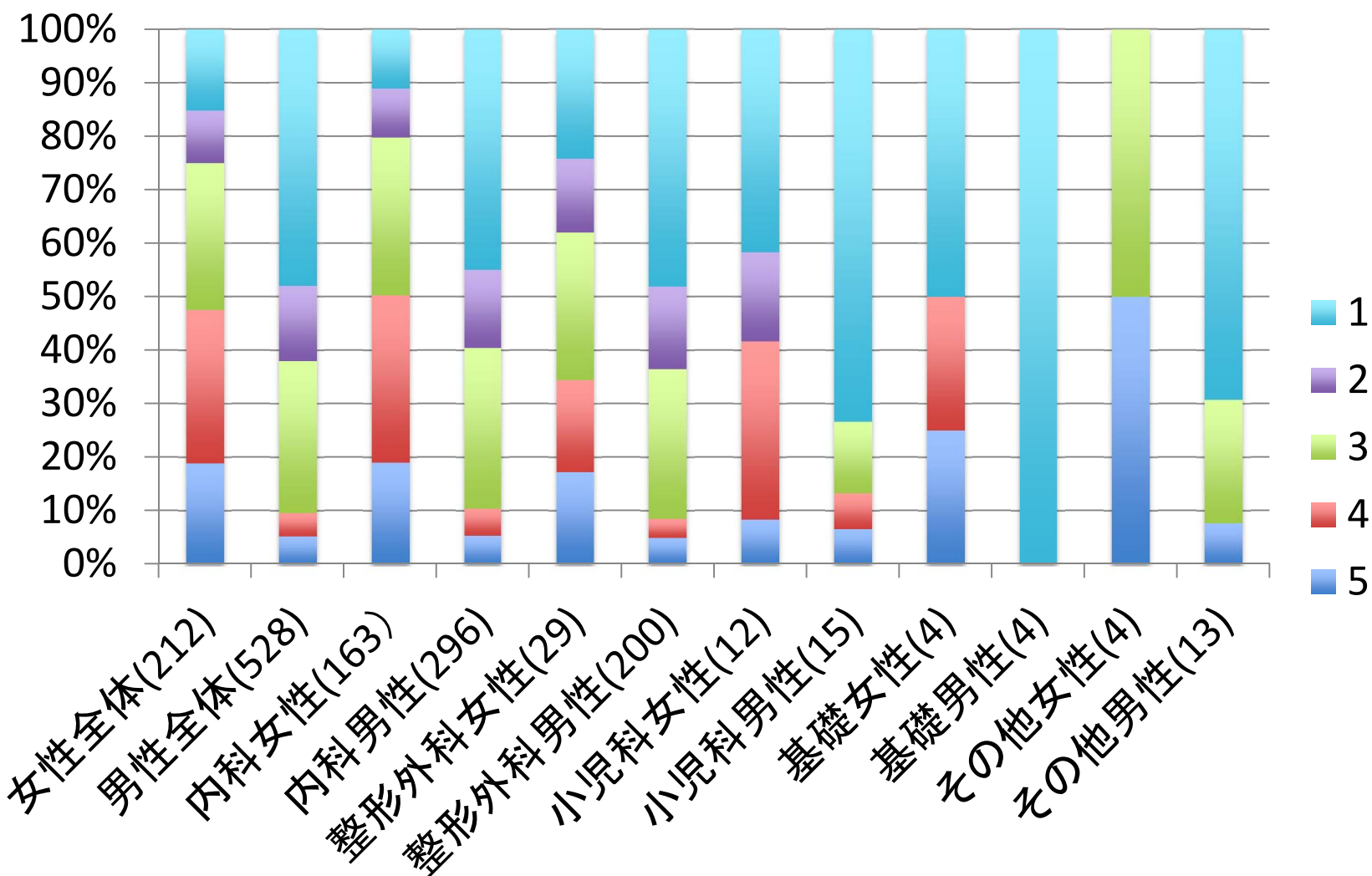
質問4 リウマチ学を専攻した理由
自分の性別を考慮しての強度



質問5 実際に選んでみてどうですか
自分の性別を生かしている

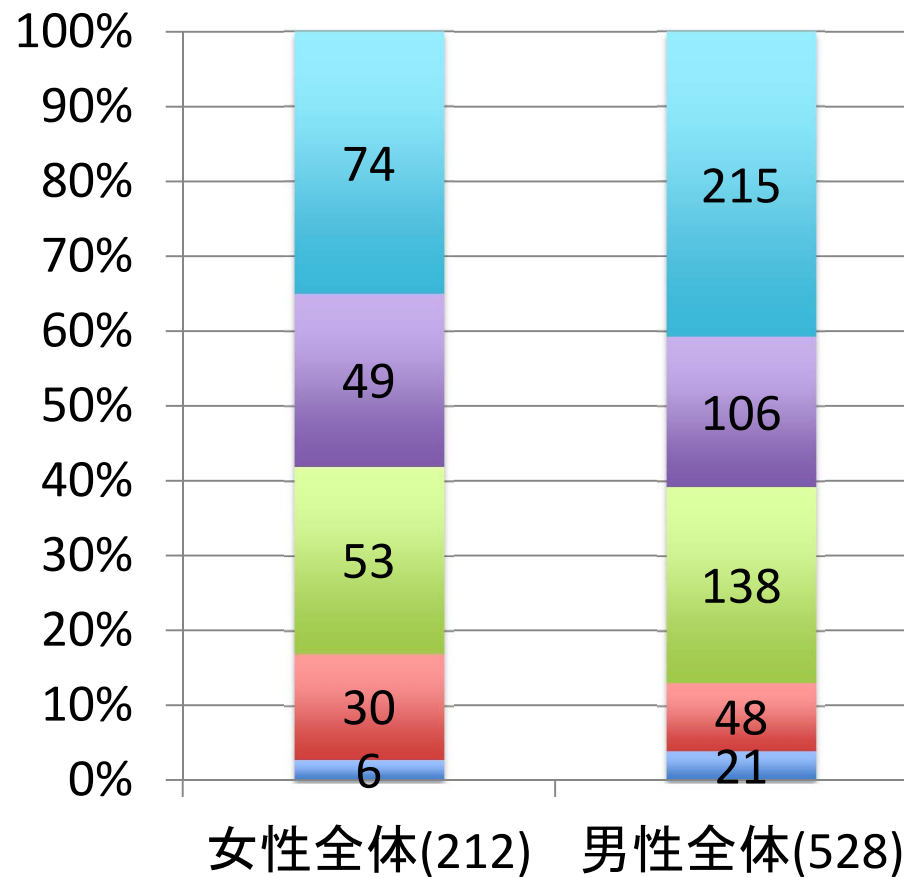


質問5 実際に選んでみてどうですか C 自分の性別を生かしている

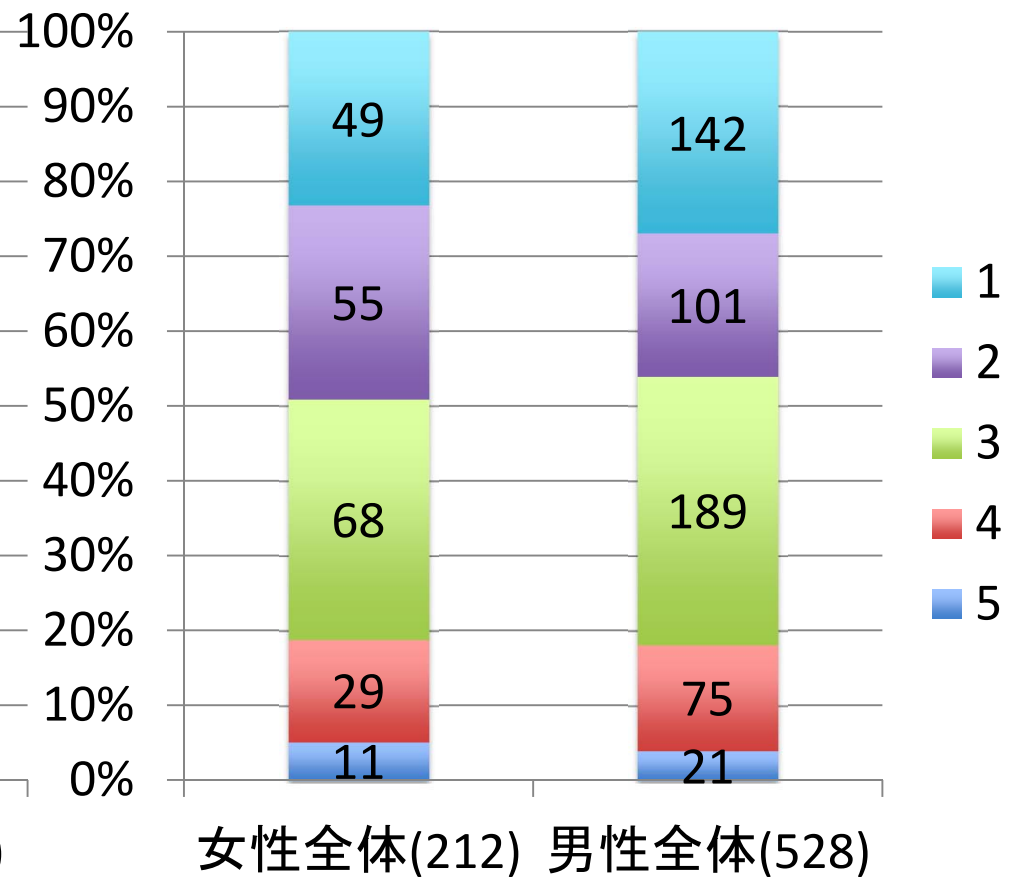


ワークライフバランス

質問4 リウマチ学を専攻した理由
C ワークライフバランスを考
慮しての強度



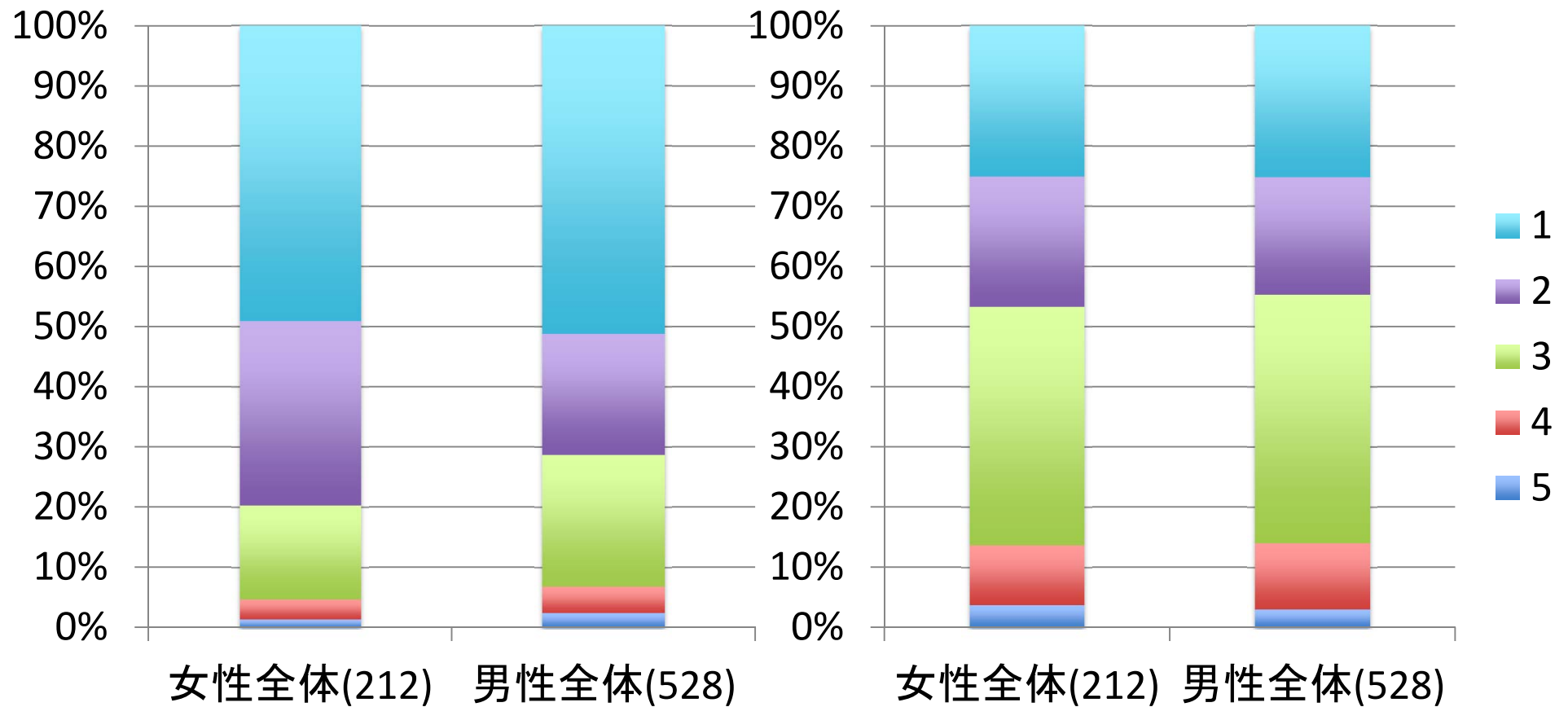
質問5 実際に選んでみてどうですか
D ワークライフバランスが良い



収入面

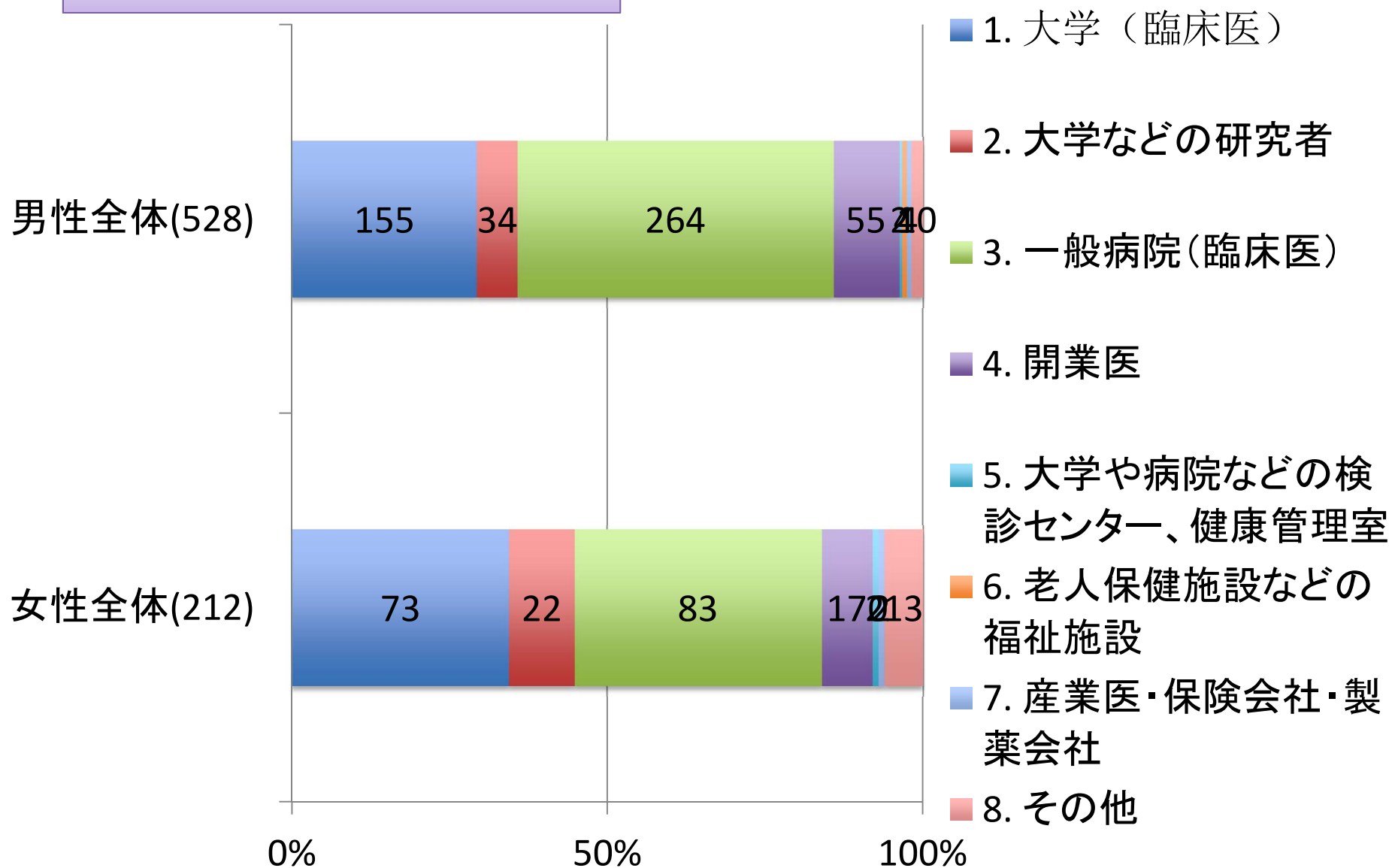
質問4 リウマチ学を専攻した理由
D 収入面を考慮しての強度

質問5 実際に選んでみてどうですか
E 収入面で満足しているの強度

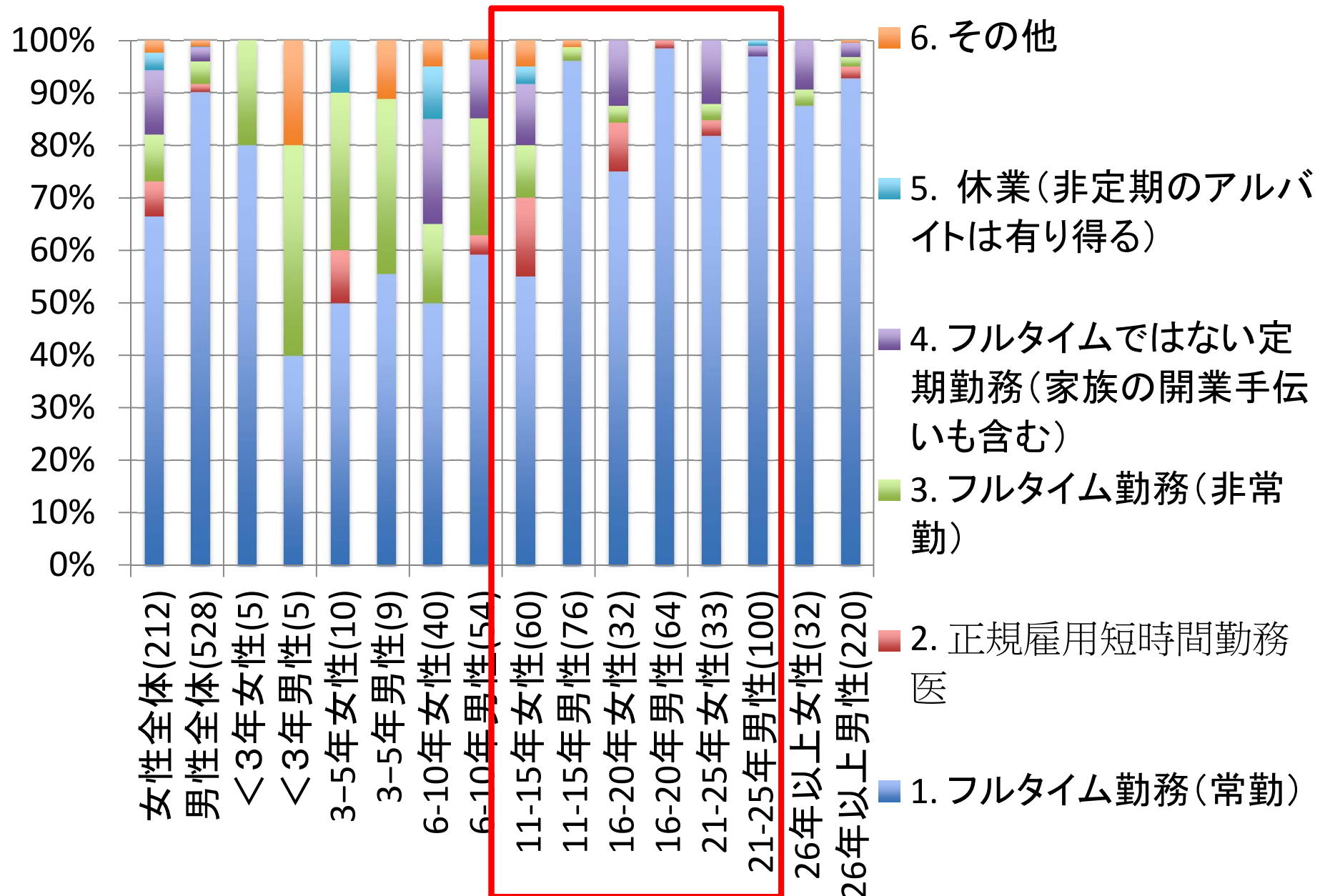


現在の勤務状況について

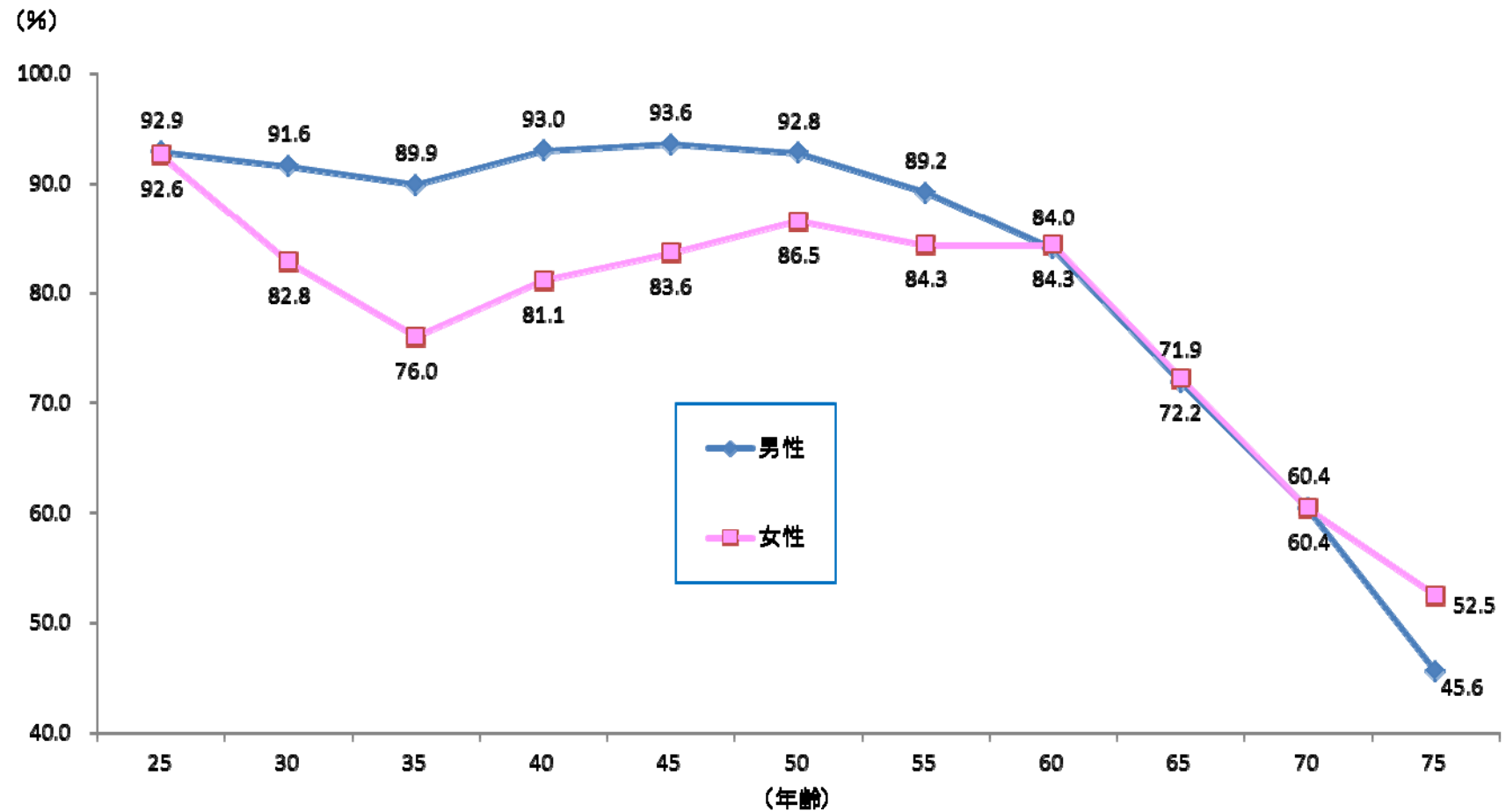
現在の職場について



現在の勤務形態で、一番当てはまる項目を選んで下さい



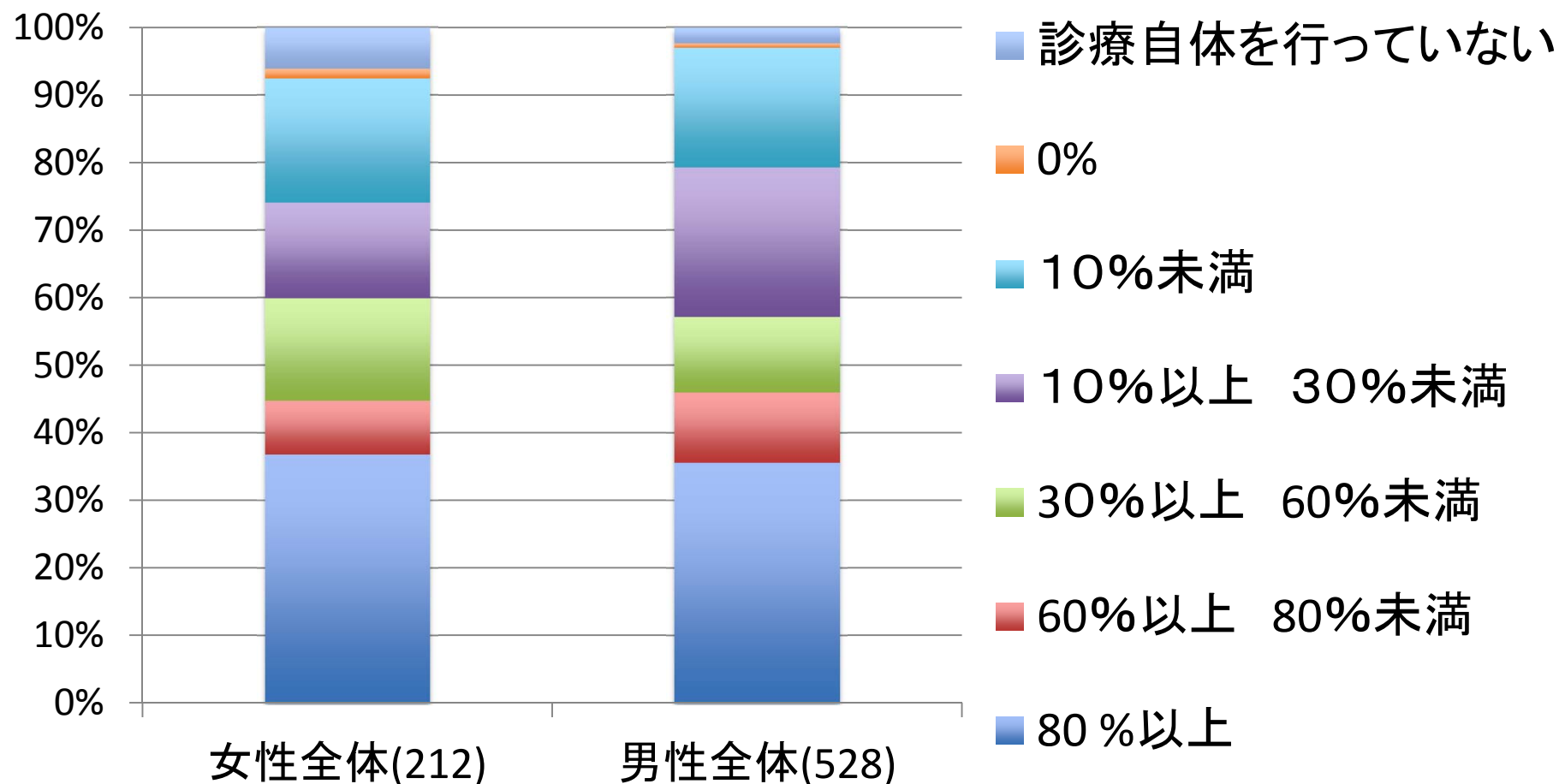
女性医師の活動率



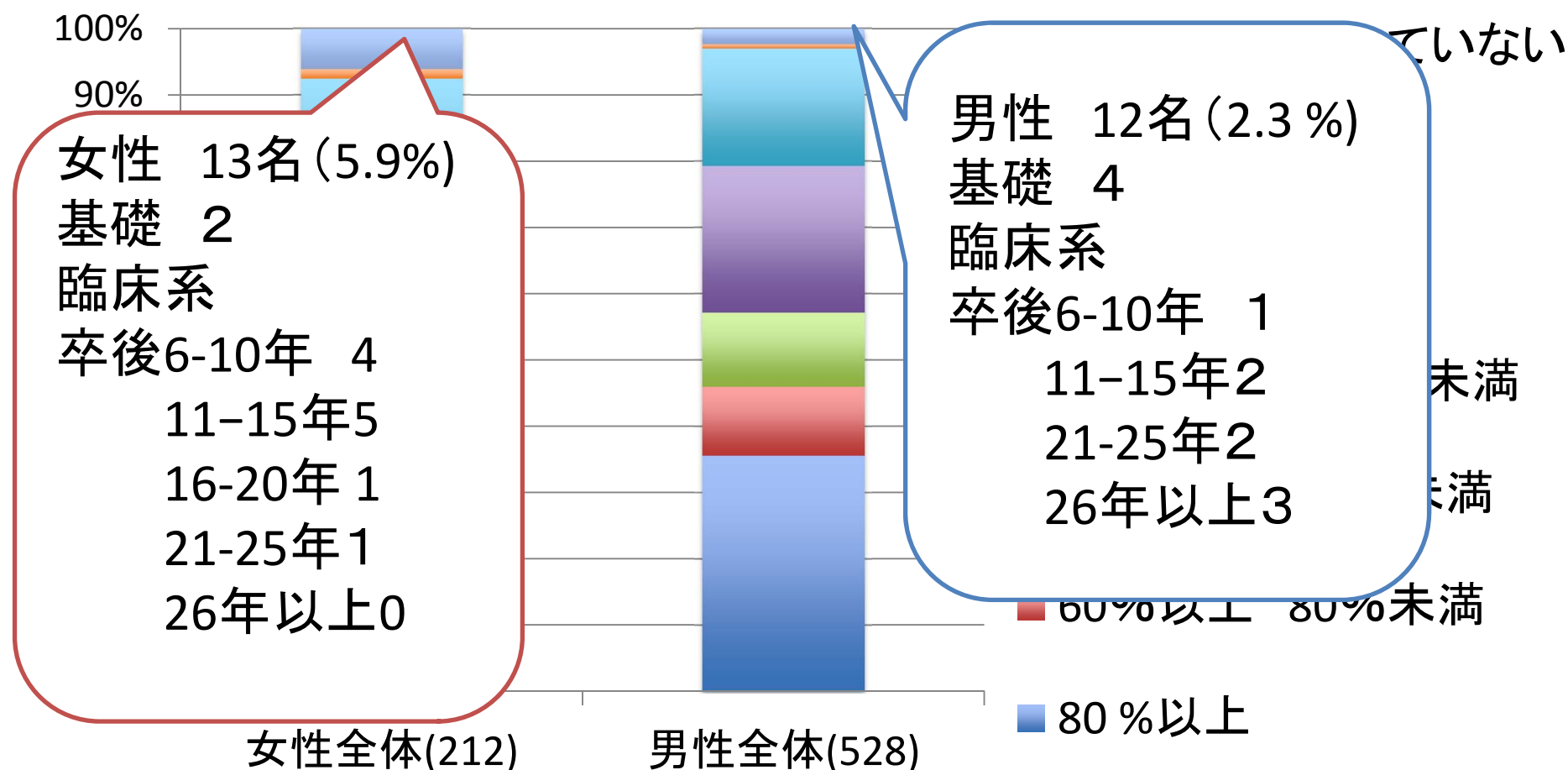
※医師が25歳で卒業すると仮定した場合の就業率。

「日本の医師受給の実証的調査研究」(主任研究者 長谷川敏彦)

質問10 リウマチ診療の診療に占める割合

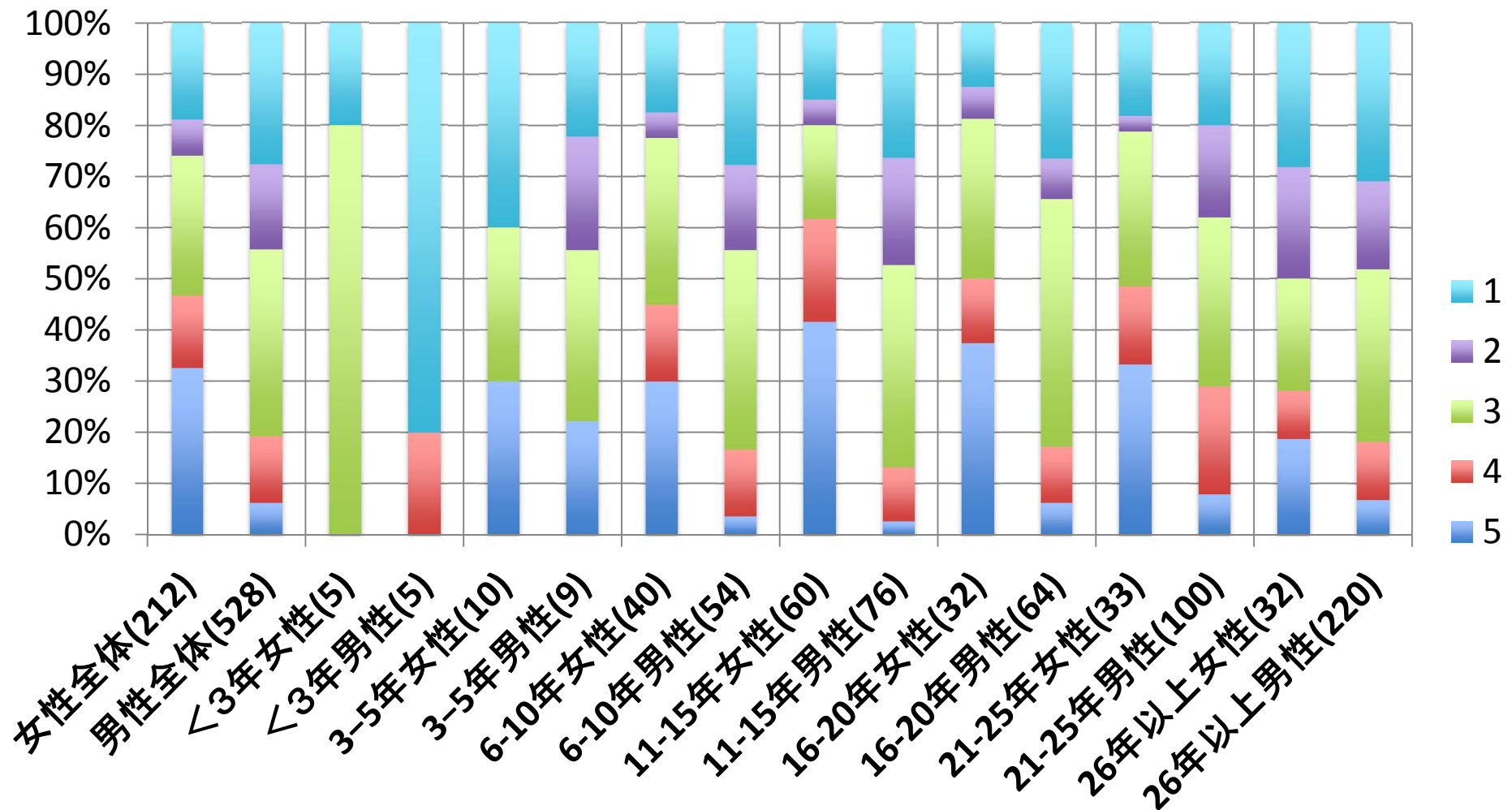


質問10 リウマチ診療の診療に占める割合

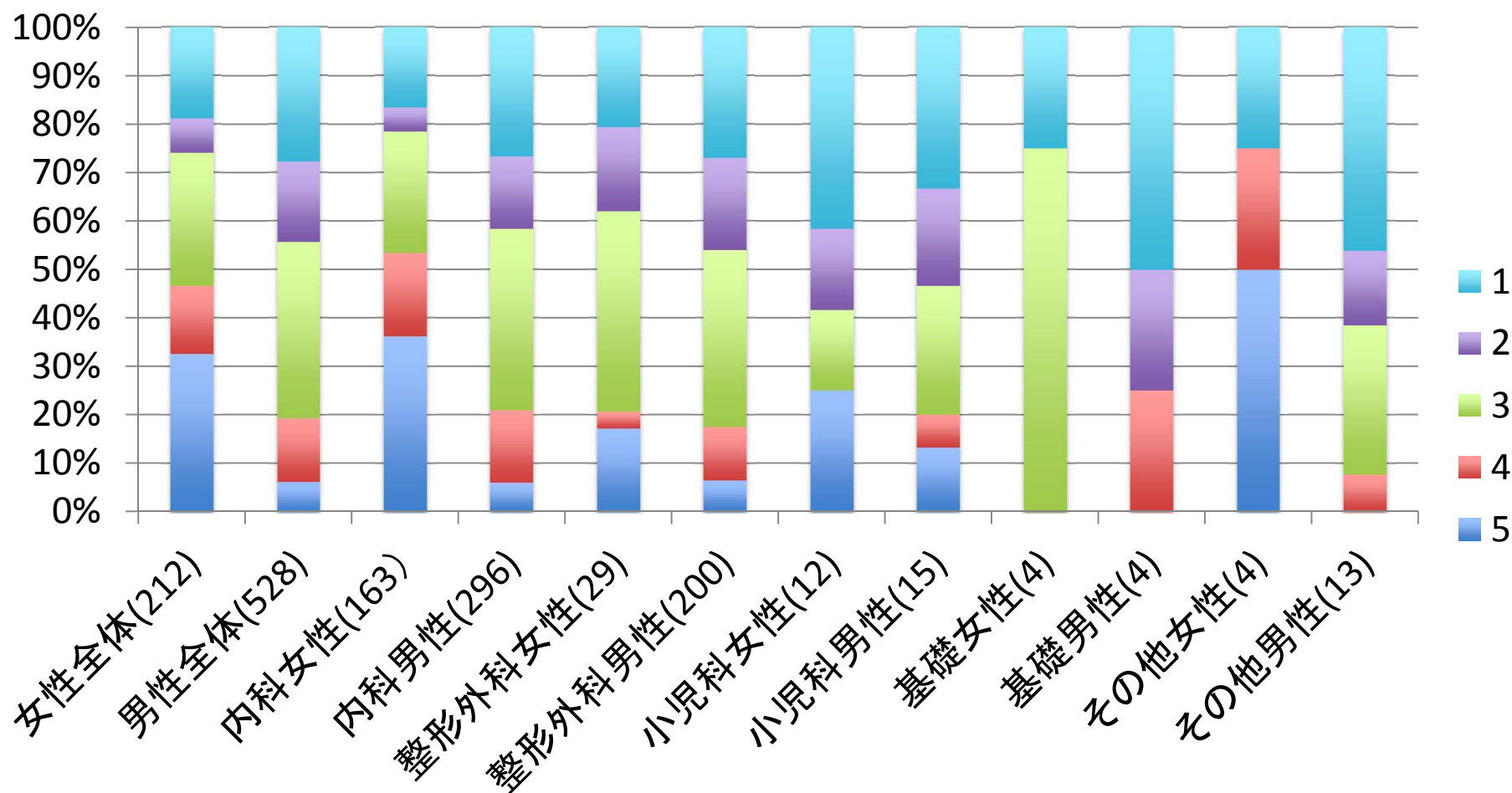


質問11 現在の勤務形態の選択に性別および家庭は影響しているか

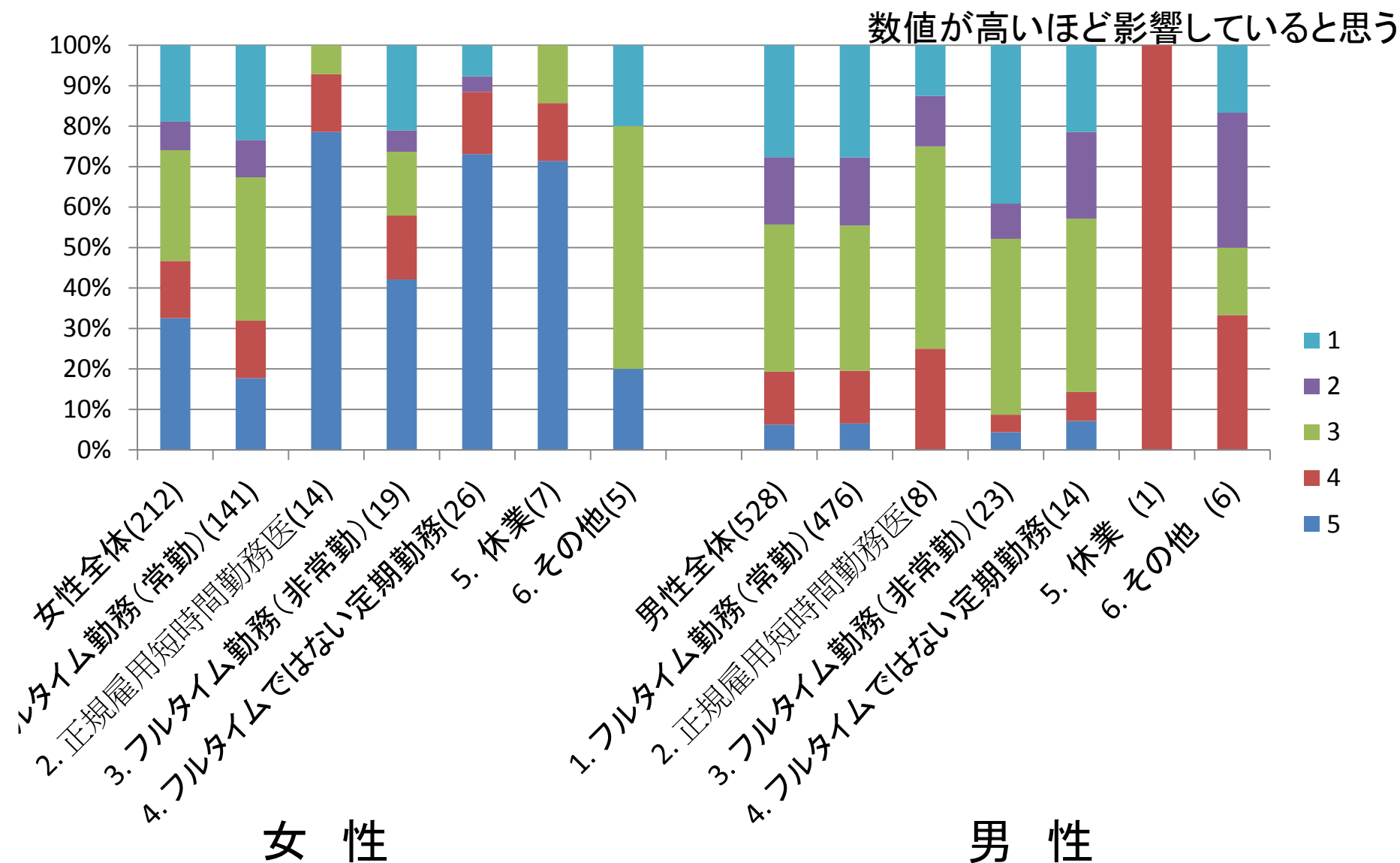
数値が高いほど影響していると思う



質問11 現在の勤務形態の選択に性別および家庭は影響しているか

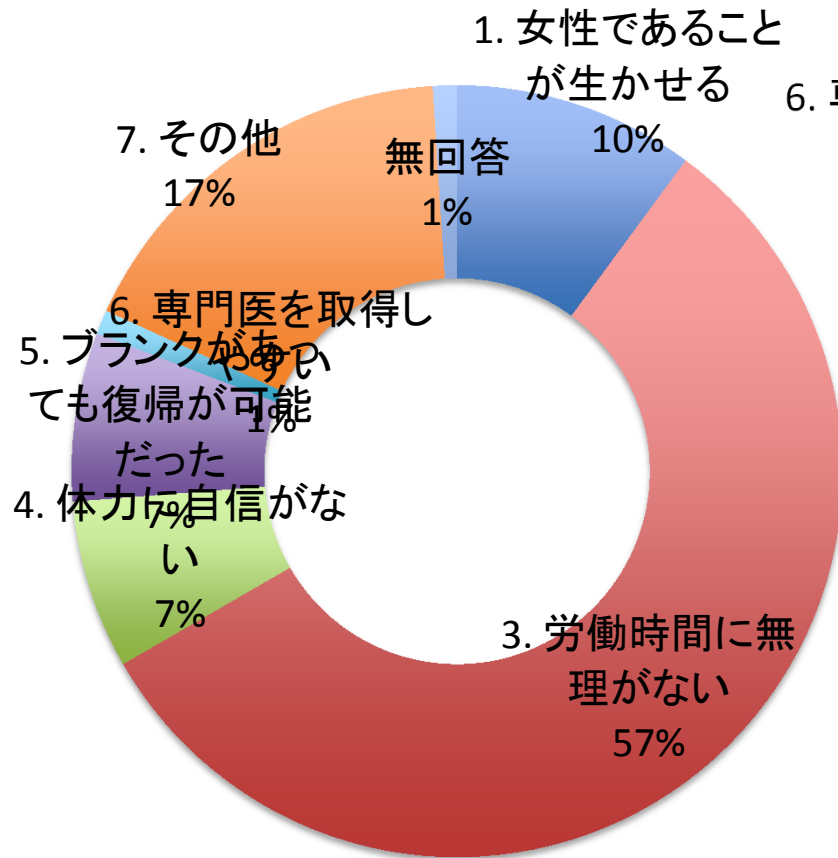


質問11 現在の勤務形態の選択に性別および家庭は影響しているか

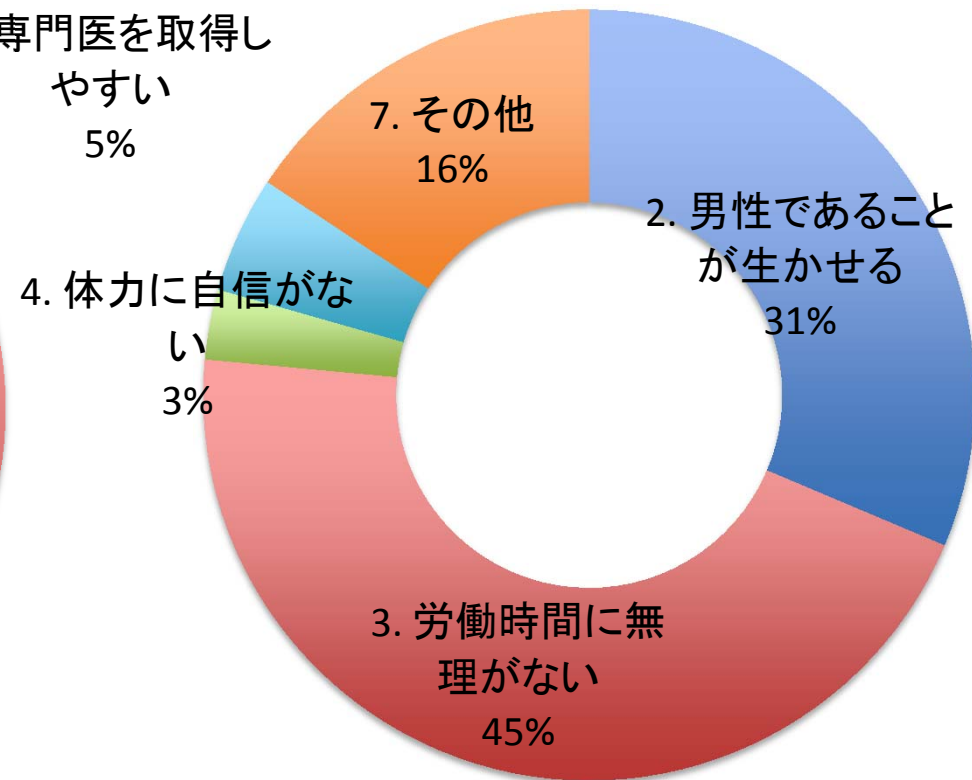


質問12 現在の勤務形態の選択に性別および家庭は影響している(4、5)の理由

女性

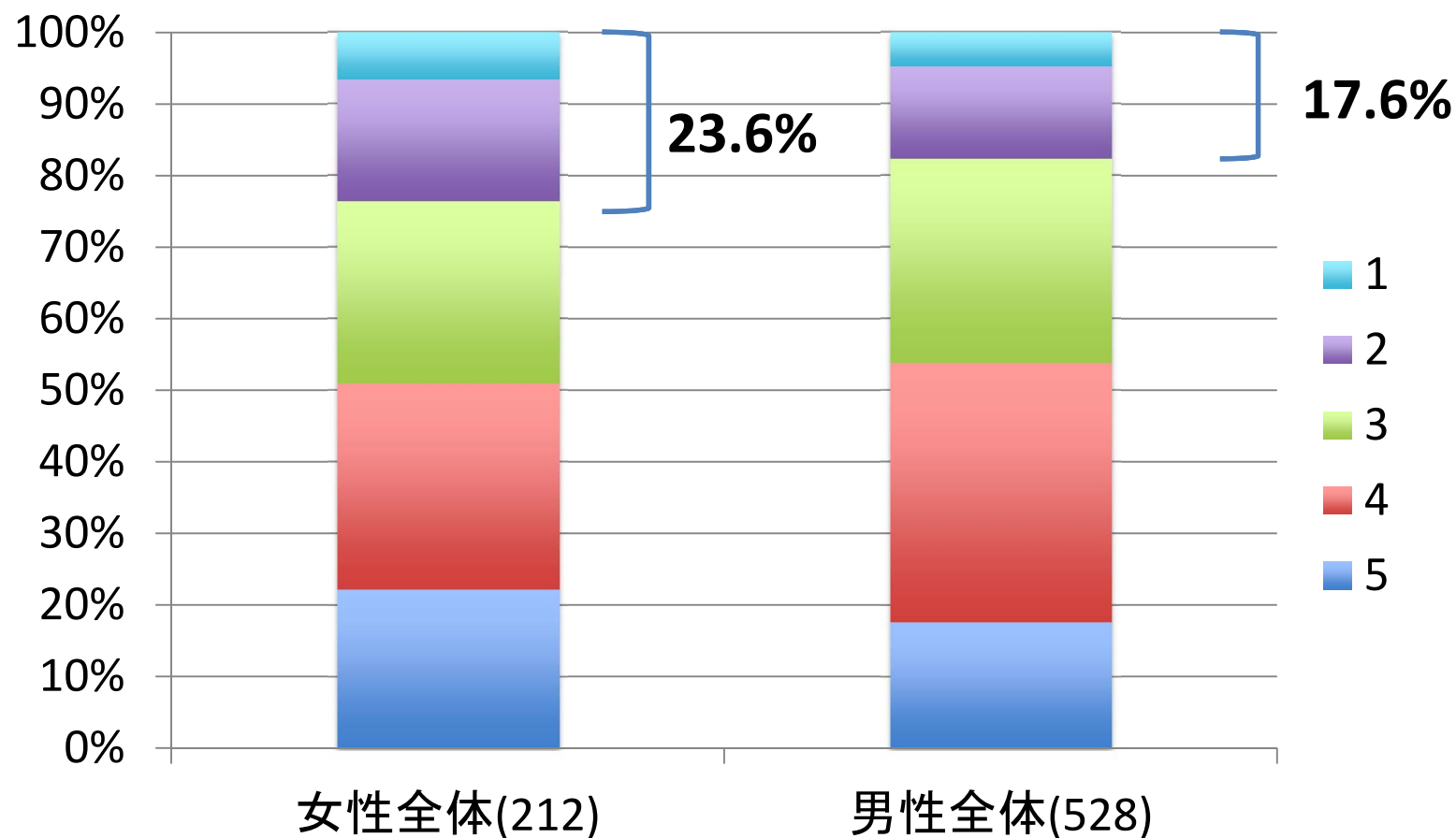


男性



質問14 現在の勤務内容に満足していますか

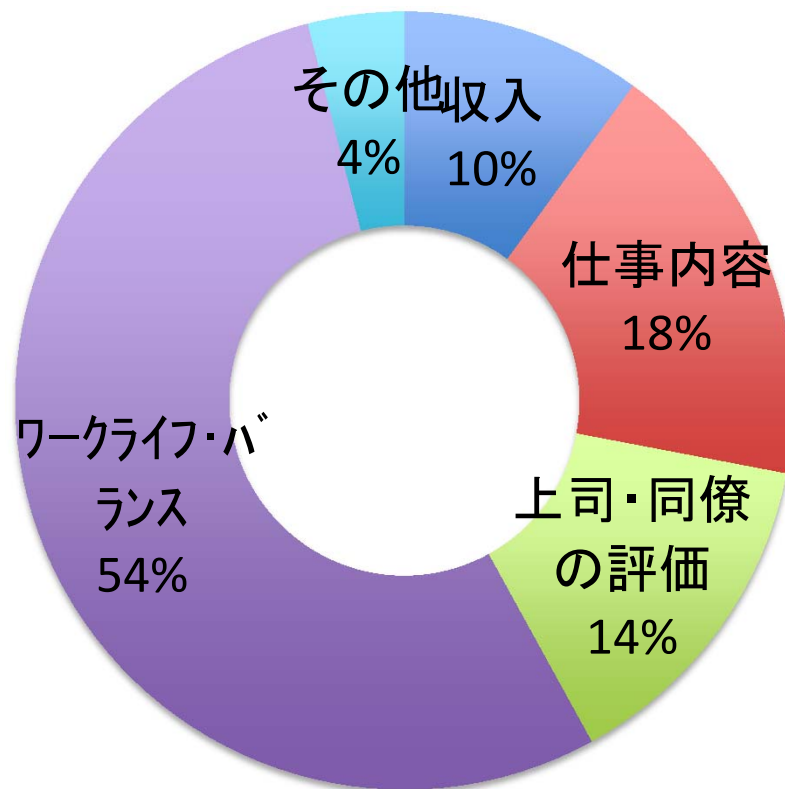
数値が高いほど満足度が高い



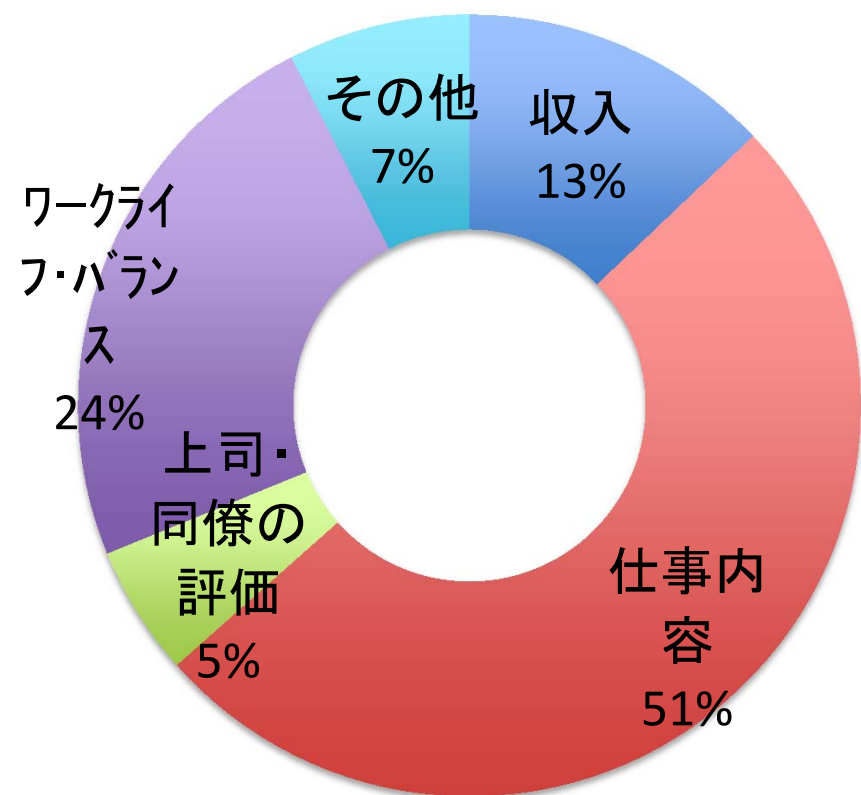
分野別では小児科の男性に満足度が高く、卒業後年数が大きいほど男女とも満足度が高い

勤務内容に満足していない理由

女性 (50)

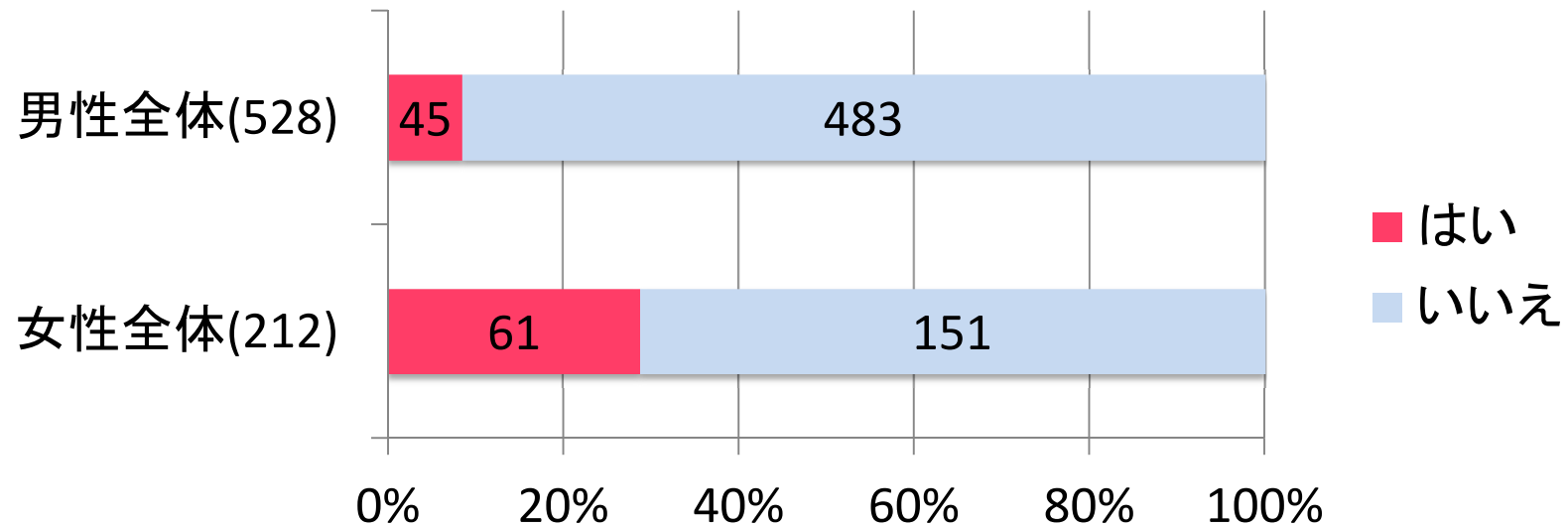


男性 (93)



キャリア形成

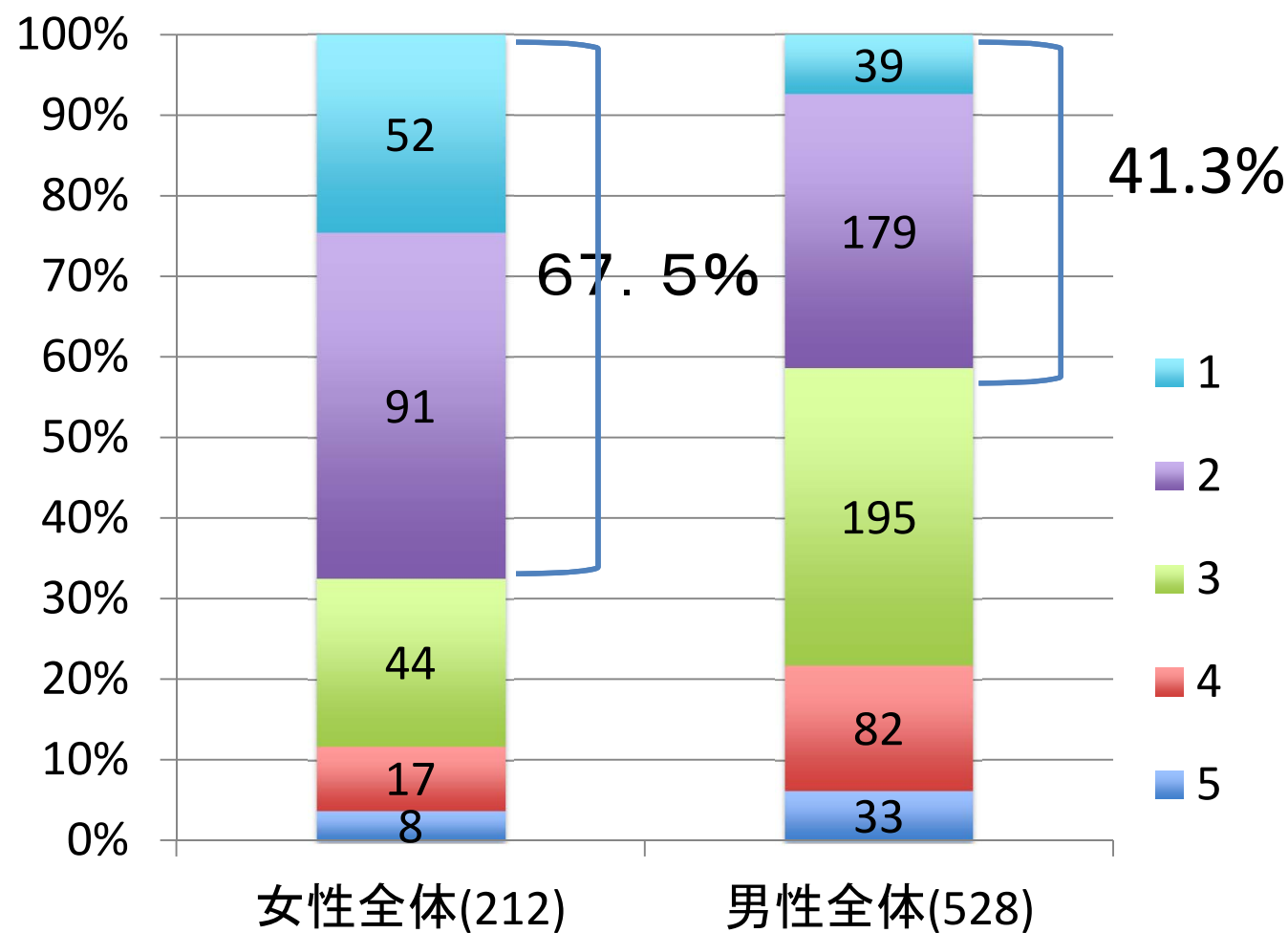
質問16 今までに産休/育休以外に休業したことがあるか



理由 (実数)	子育て	健康上	介護	その他	人数 (複数回答あり)
男	5	31	2	11	59
女	24	26	3	12	45

質問21 女性は男性と同じようにキャリア形成ができていると思うか

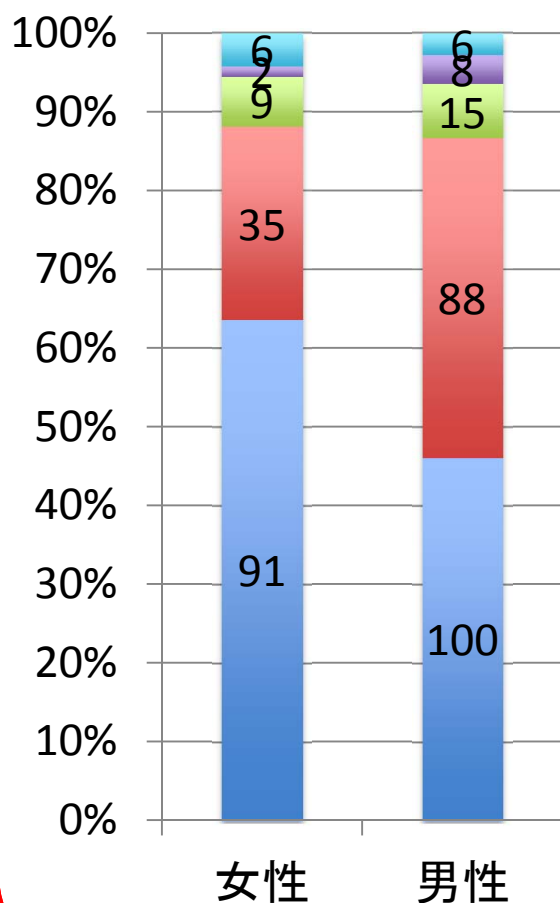
数値が高いほどそう思う



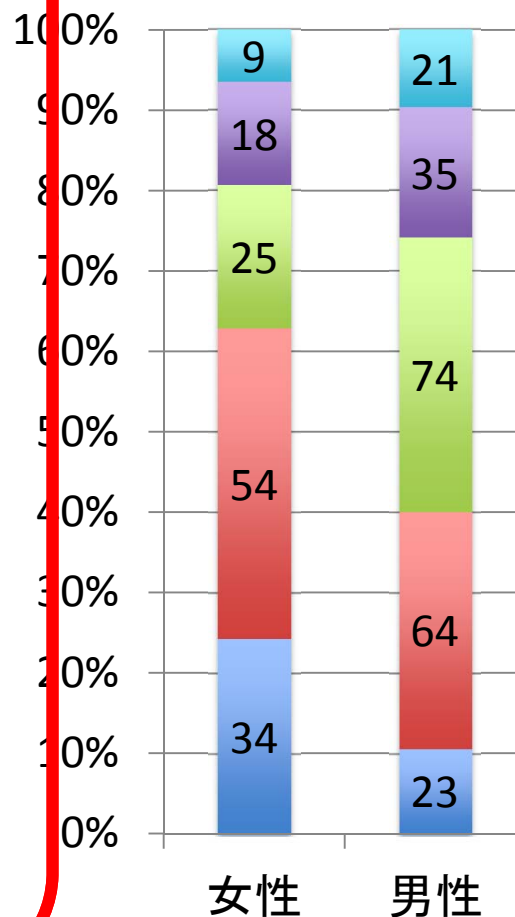
質問22 キャリア形成を拒む理由は何だと思いますか (21で1. 2と答えた人)

数値が高いほどそう思う

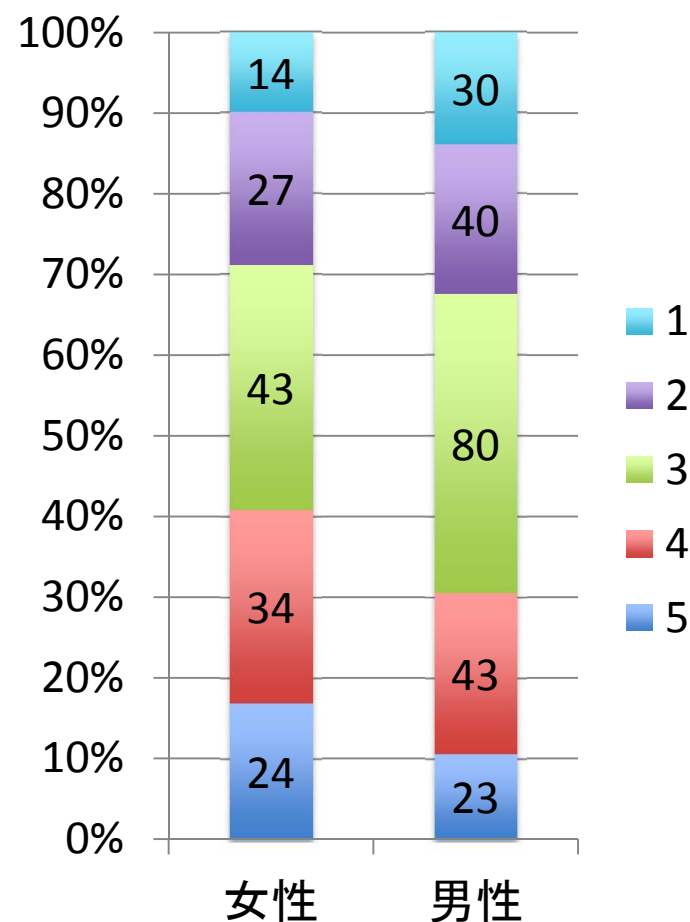
育児による制限



ロールモデル の不足

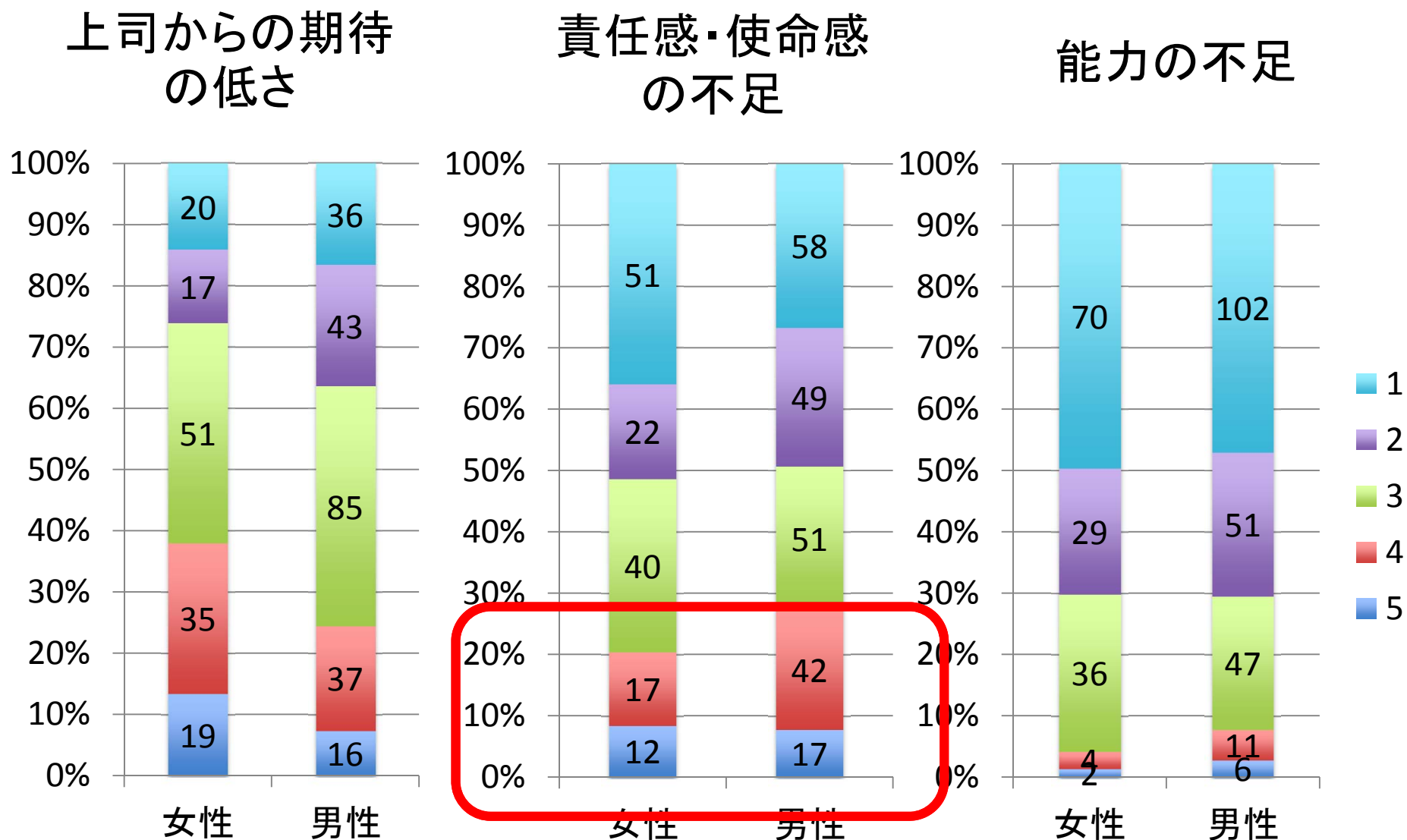


正当な評価が されにくい

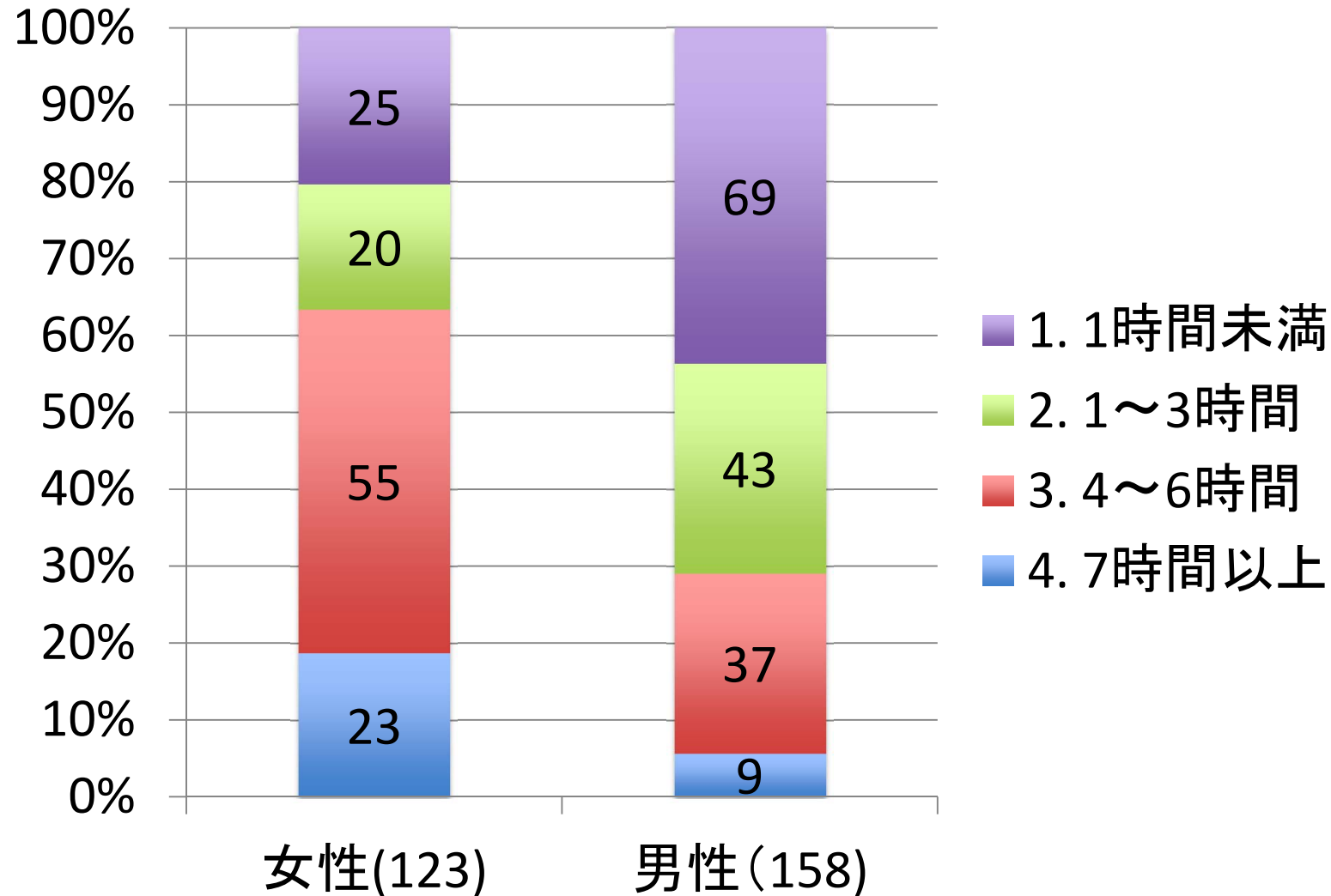


質問22 キャリア形成を拒む理由は何だと思いますか (21で1. 2と答えた人)

数値が高いほどそう思う



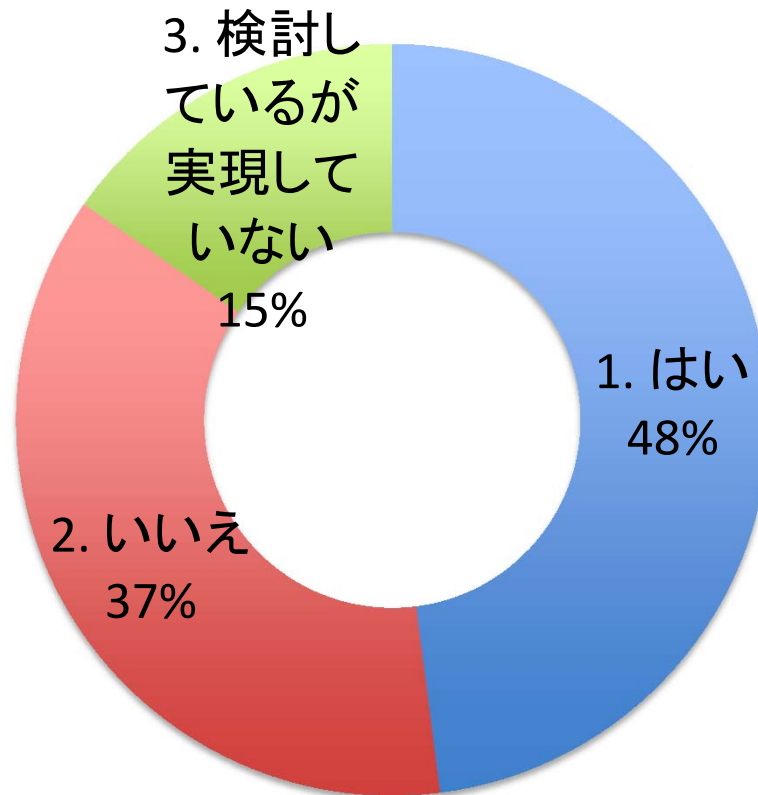
質問23 1日のうちで育児や介護に使う時間はどのくらいですか？

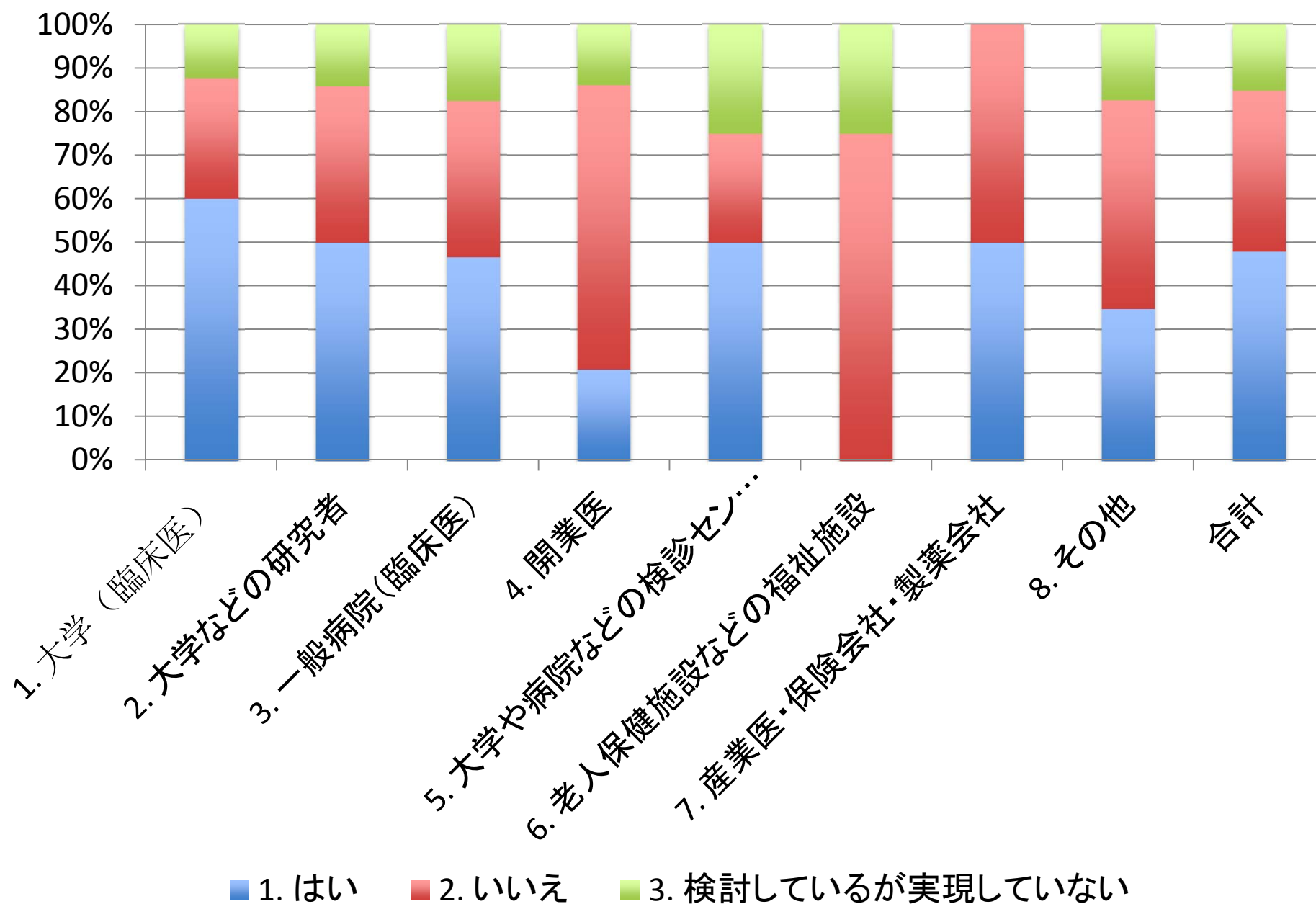


キャリア形成が出来ていない理由(その他)

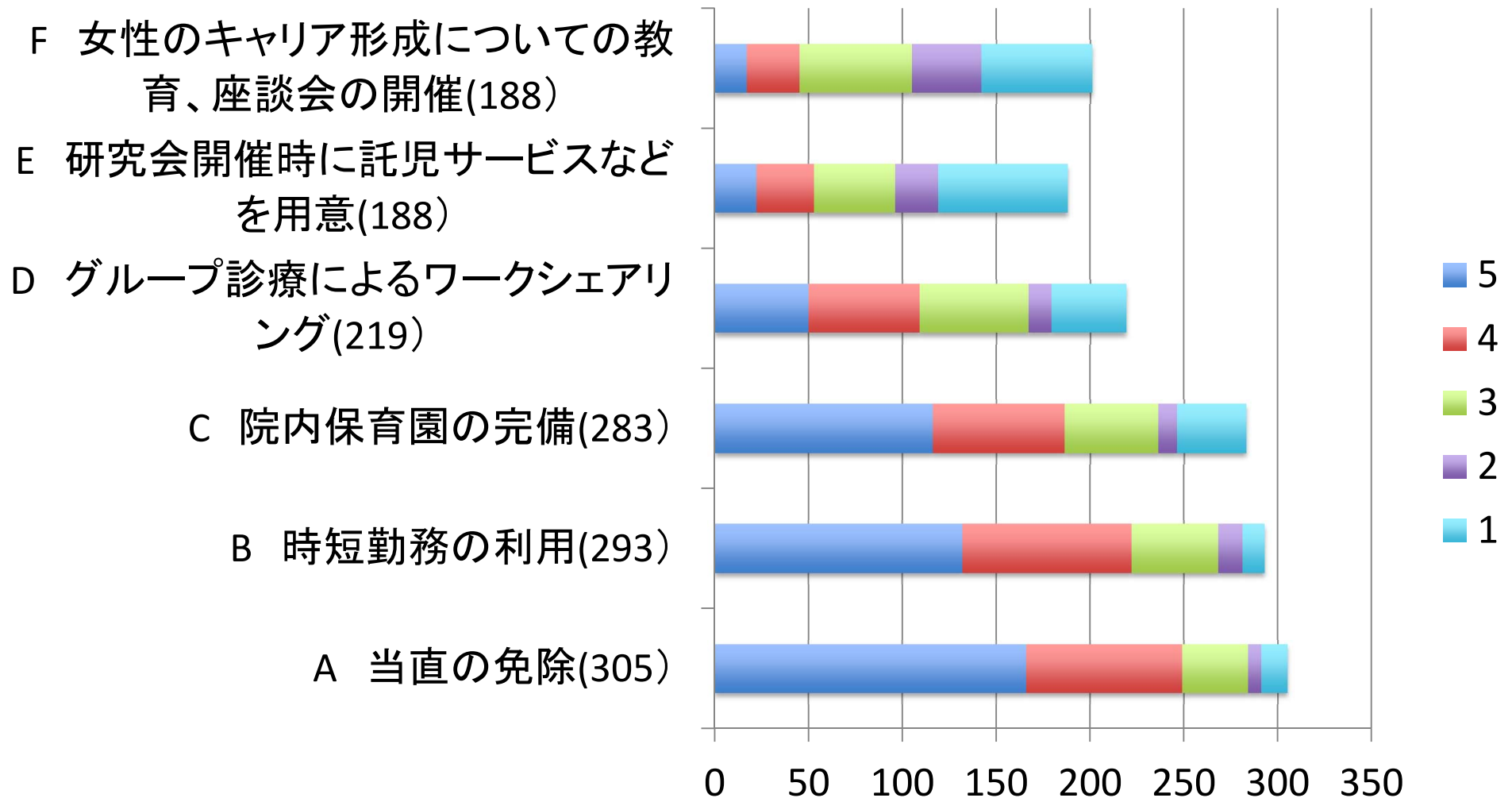
- 女性が男性の補助的存在とする社会全体の雰囲気
- 男性優位の医師の社会そのものが阻害因子
- 組織内での明らかな男女差別意識
- 家族の理解 家事全般／家事の割合
- 法律で認められているはずの産休・育休の取得を、単なる女性のわがままと認識される職場の意識
- フルで働けない
- 「女子力」という妙なものを要求されること
- 男性の危機感
- 医局より勤務を支持された先の病院の規模
- 体力
- 女性で男性並みの評価を得るには男性の3倍働かなければいけない。

質問25 現在の職場(医局)では、育児や介護を理由にキャリア形成に困難を来している医師に対して、なにか対策を行っていますか？





質問25 で はい、と答えた方 具体的に行われているのは？



質問25 現在の職場(医局)では、育児や介護を理由にキャリア形成に困難を来している医師に対して、なにか対策を行っていますか？

その他の対策

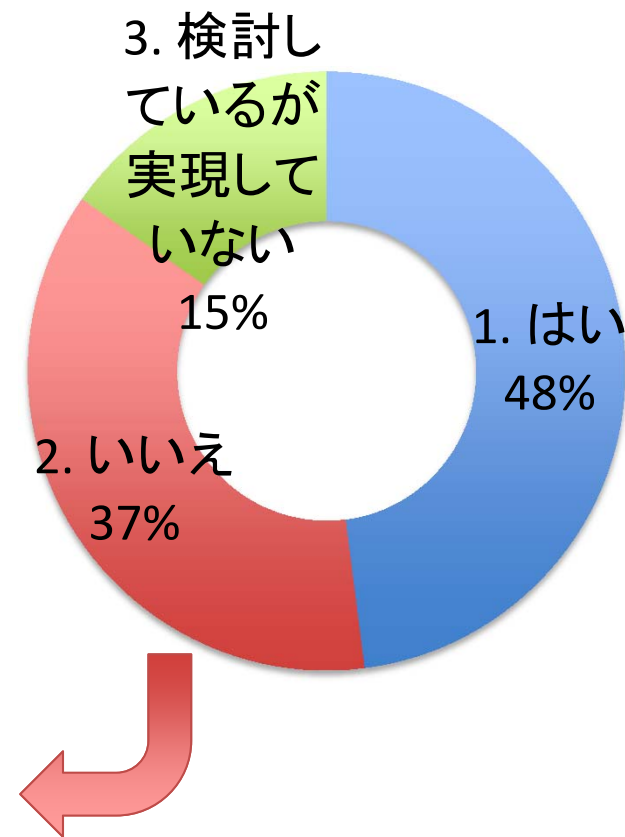
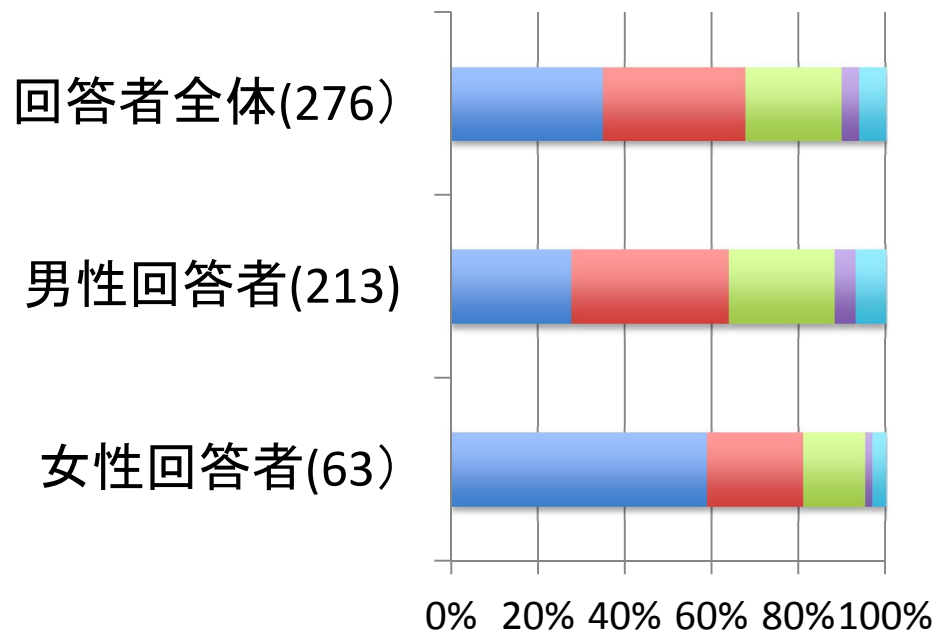
- 外勤免除、入院担当免除など
- 病棟業務免除
- ネットを使用した産休・育休期間の教育と復帰準備
- 臨床心理士の面談
- 病児保育
- キャリア相談窓口、医師復帰プログラム
- 女性上司による都度対応

否定的な意見

- 当直をやった方が、キャリア形成できるのでは？と思う。
- 残った医師にすべて押し付けられている

質問25 現在の職場(医局)では、育児や介護を理由にキャリア形成に困難を来している医師に対して、なにか対策を行っていますか？

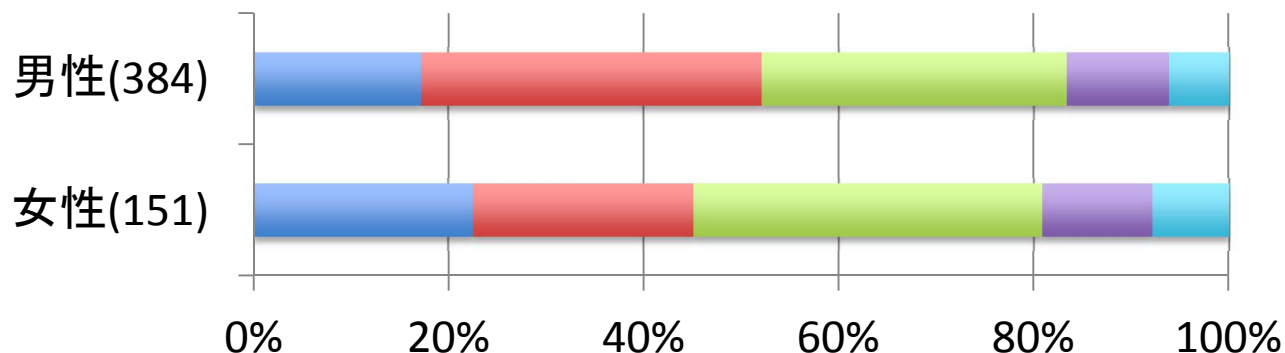
質問27 今後そのような取り組みは必要と考えますか？の強度



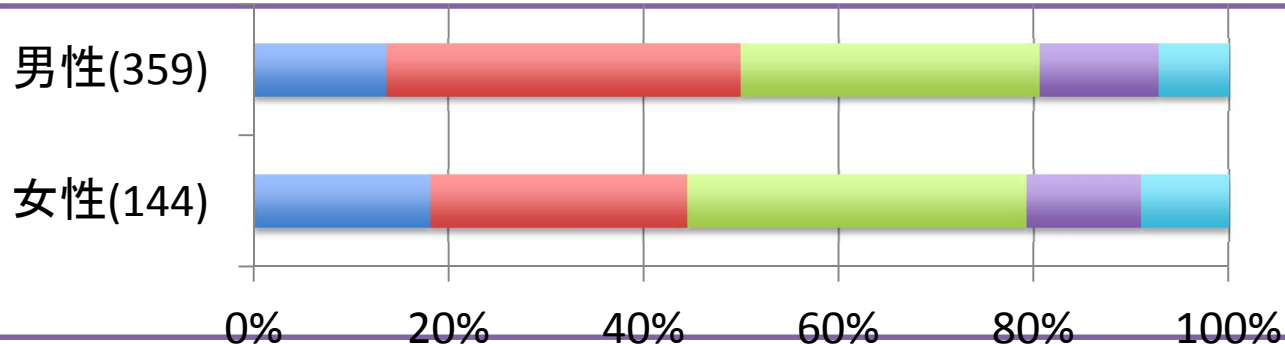
JCRが行うべき取り組み

質問28 学会で行う必要のある取り組み(数値が高いほど強い)

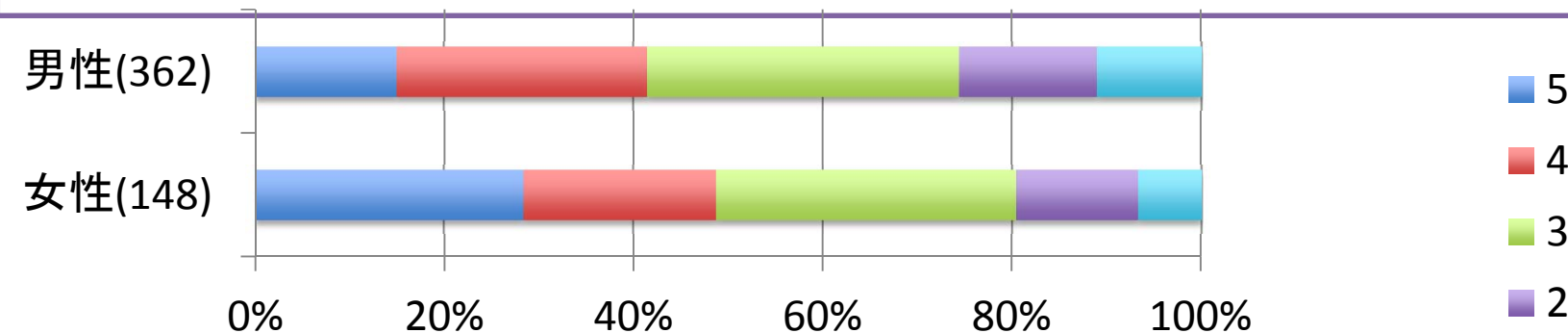
A 医学生、研修医にキャリア形成についての教育、講演を行うの強度



B 年次講演会で女性医師支援に関する講演・イベントを継続していくの強度

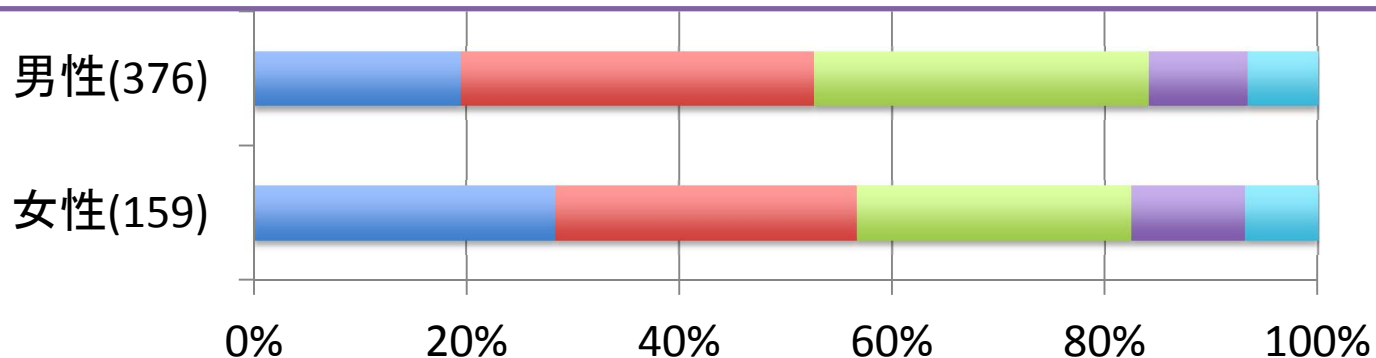


C 学会の評議員、幹事、委員などに女性を定数配置するの強度

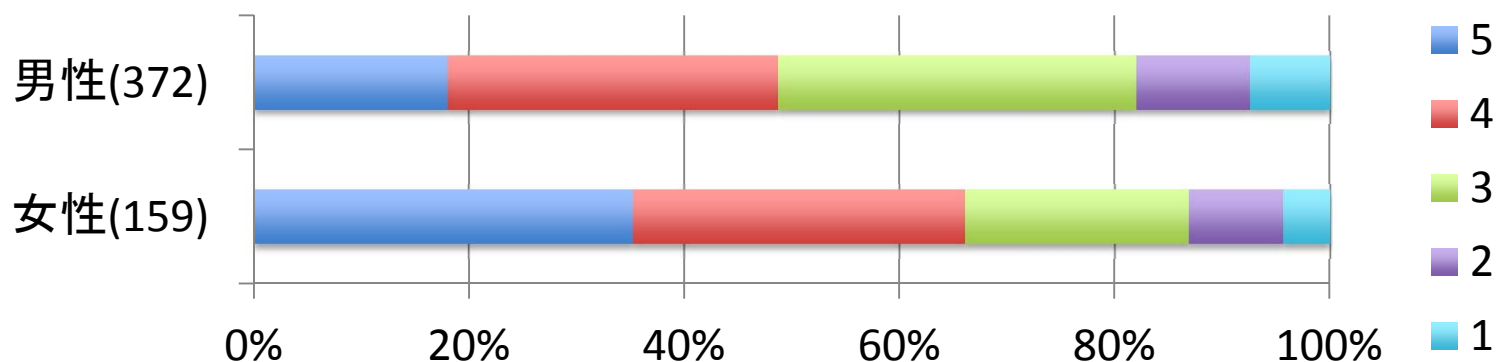


質問28 学会で行う必要のある取り組み(数値が高いほど強く思う)

D 女性医師の生活や就労に関する研究を積極的に支援するの強度

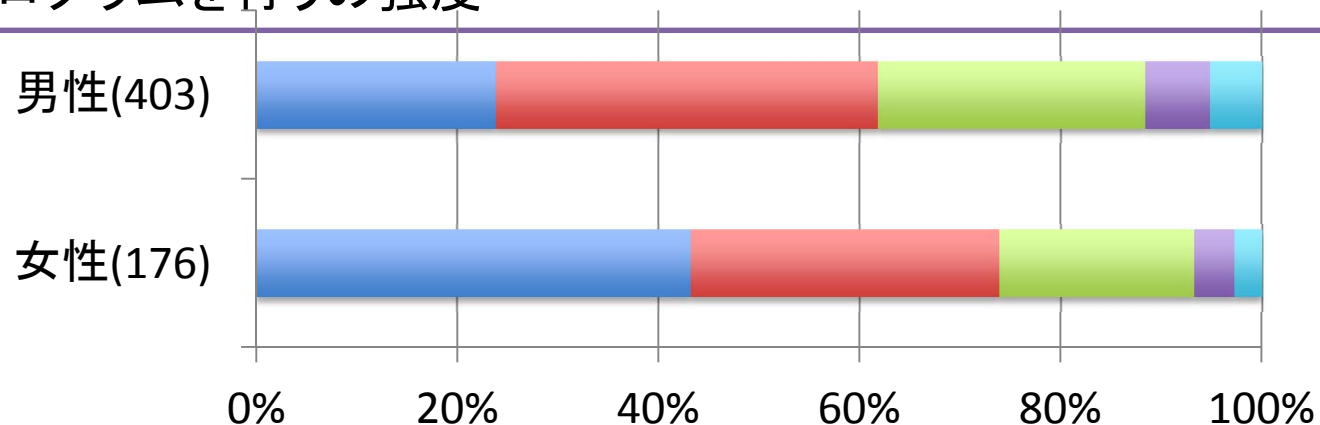


E 女性研修医のメンターとして、認定研修施設には短時間勤務医であっても常勤女性専門医が存在することを推奨するの強度

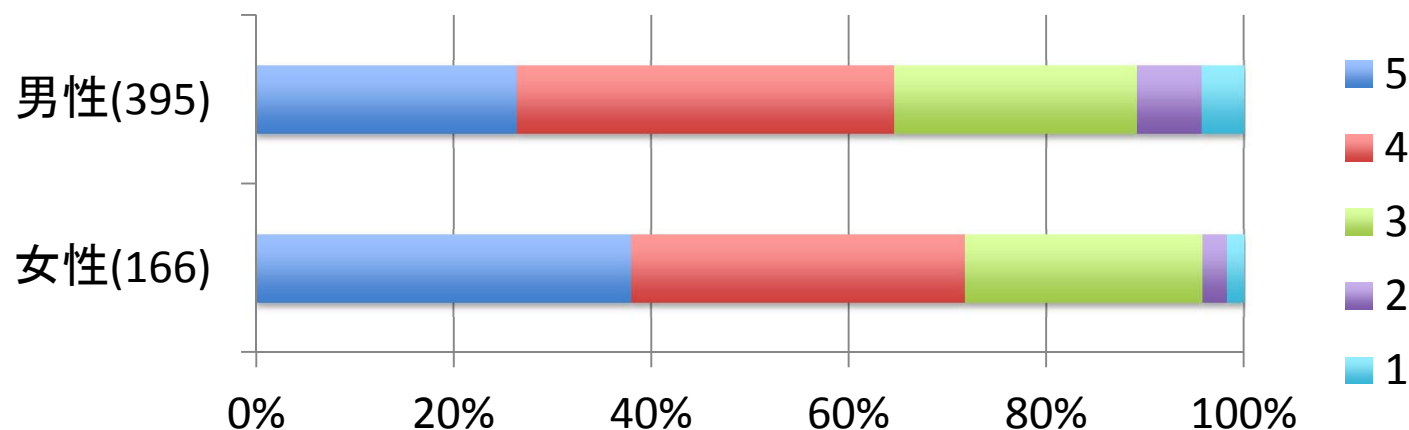


質問28 学会で行う必要のある取り組み(数値が高いほど強く思う)

F 育児や研究などの臨床ブランクのあるものを対象とした専門医取得支援プログラムを行うの強度



G 専門医であることのインセンティブが生かせる環境を醸成していくの強度



質問28学会で行う必要のある取り組み に対する意見

託児

- 学会開催中の託児所(JCR既設: 学童期前 1日15名まで)
ベビーシッター・保育室など拡充／託児所の年齢制限拡大等の設備面
授乳・オムツ交換室の併設
- 研究会・勉強会の託児サービス

女性の意識への啓蒙

- 育児や家庭に入りきってしまうような、女性医師の意識形成

質問28学会で行う必要のある取り組み に対する意見

教育施設/病院への対応

- 妊娠・出産・育児中・介護に社会通念上認められている権利に関して取り安い雰囲気学会が推奨する。
- 男性医師にも意識改革を促す講演、イベントを開催
- 女性医師の満足度が高いロールモデル施設の提示
- 同じ地域でのリウマチ専門医との連携、勉強会
- 教育施設は産休・育休・病休医師のカンファレンス参加が可能になるよう推進する

質問28学会で行う必要のある取り組み に対する意見

男女に関係ない働きやすい職場環境

- 男性が女性と同じように休める環境を作る
- 医師の過重業務軽減について医師会・行政との折衝
- 性別に関係なく職能が効率よく発現できる職場環境の整備
- 男性にも適応し、女性でなくても促進してほしいこともある
- 長時間勤務を良とする雰囲気改善
- 女性に限らずリウマチ診療に携わる医師の負担軽減策が必要
- 職場環境整備 育児出産だけが理由ではないので、その部分での支援体制整備
- 男女平等なキャリア形成が重要。

質問28学会で行う必要のある取り組み に対する意見

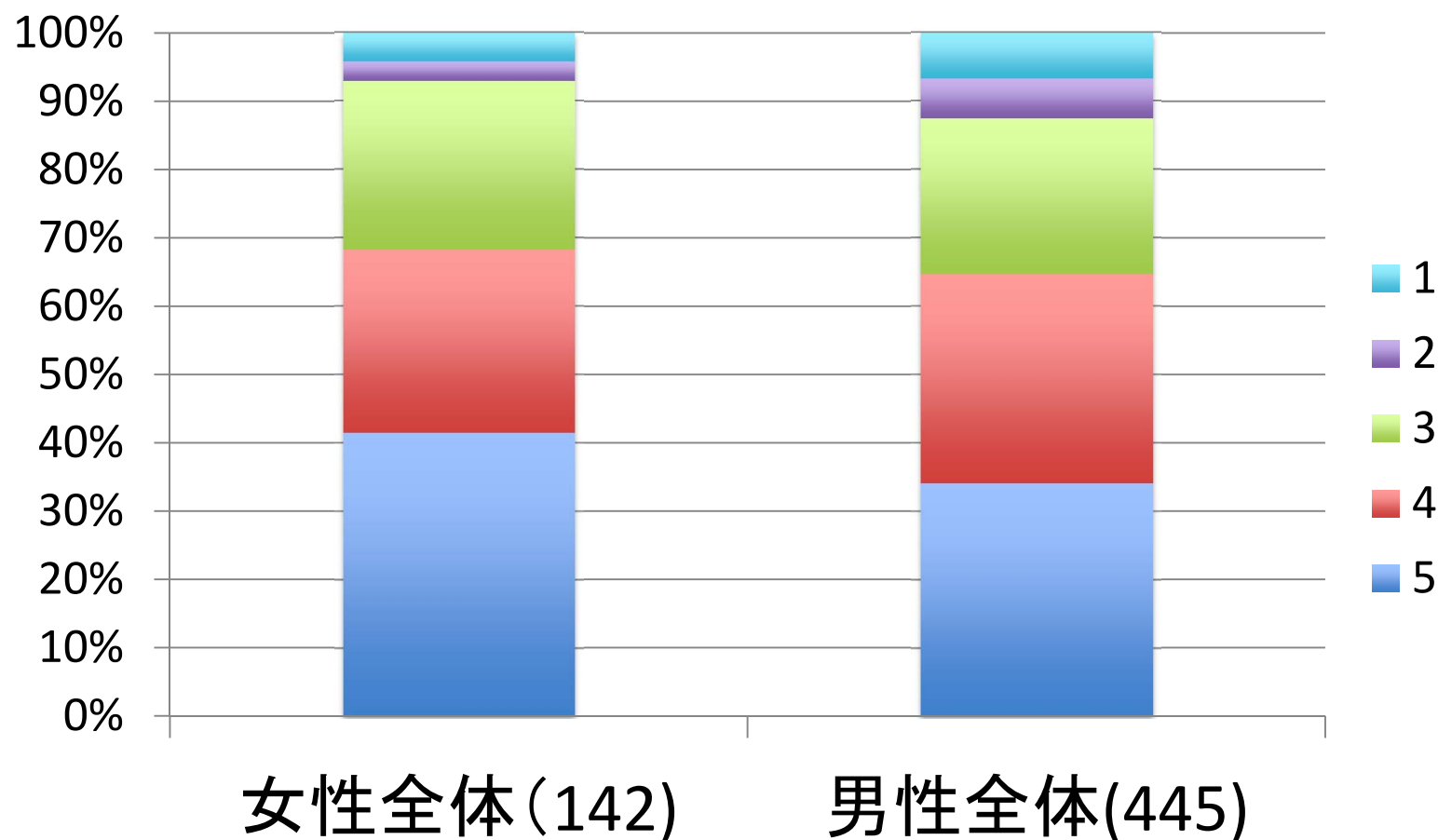
女性会員支援の取り組みを不要とする意見

- 女性医師支援は差別だと思っている
- 女性への支援そのものが女性蔑視
- 対策は不要。個人の資質の問題。
- 女性会員の支援は必要ない

専門医制度

質問7 専門医を取得してよかったか

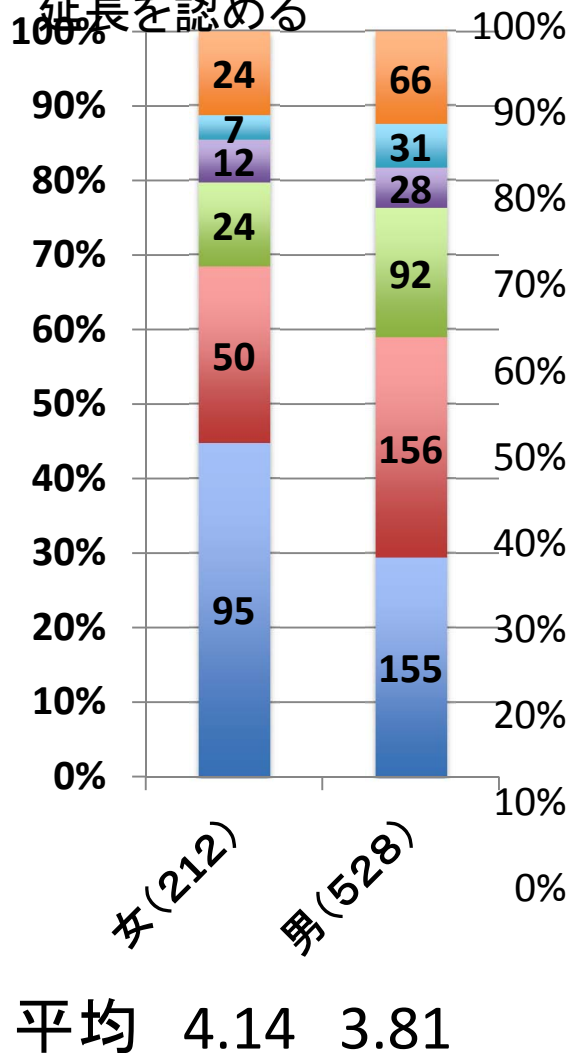
数値が高いほど良いと思う強度が強い



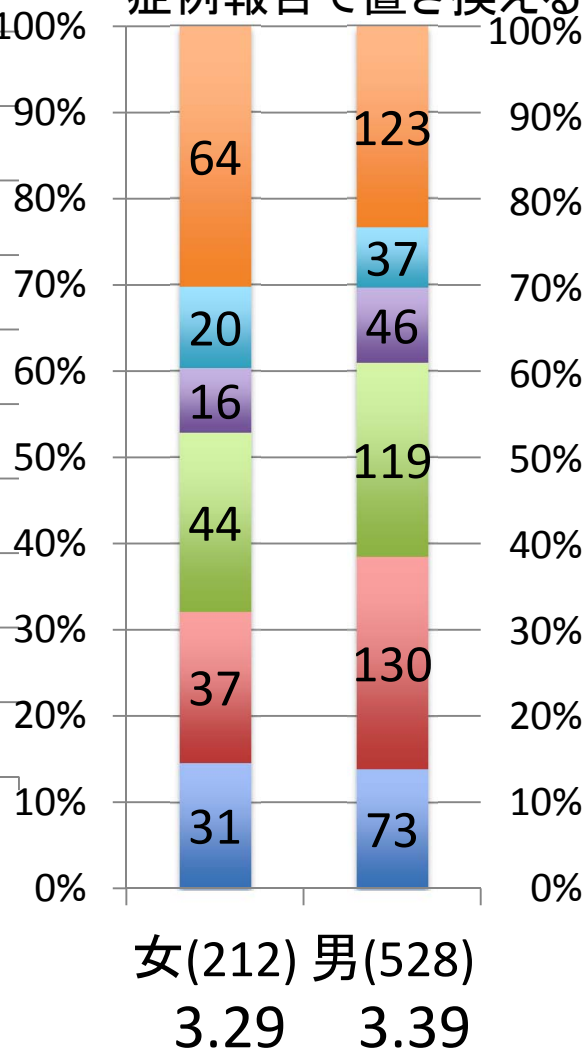
29A専門医制度に対する要望



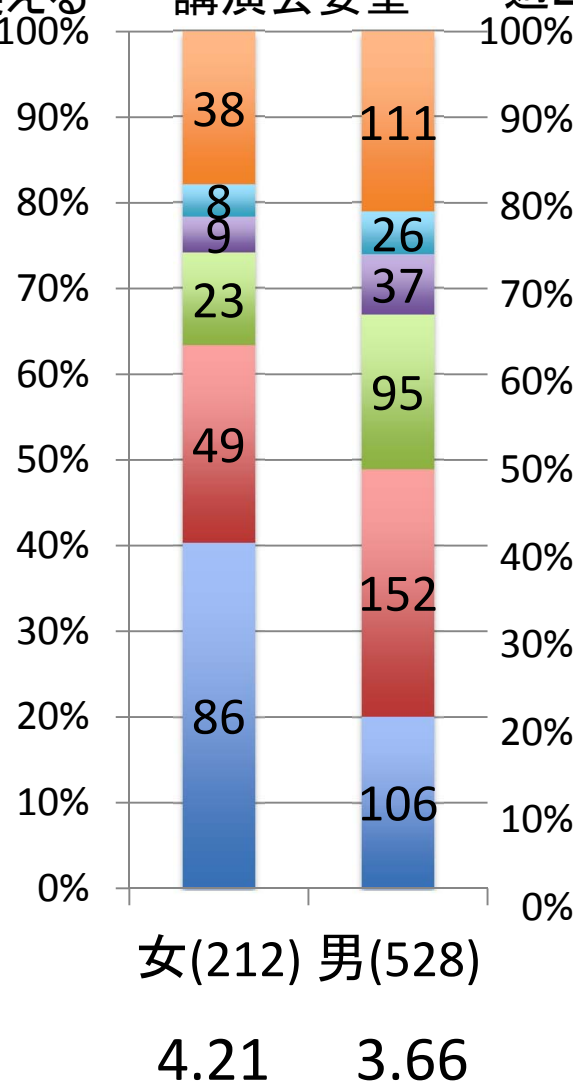
産休・育休は更新期間
延長を認める



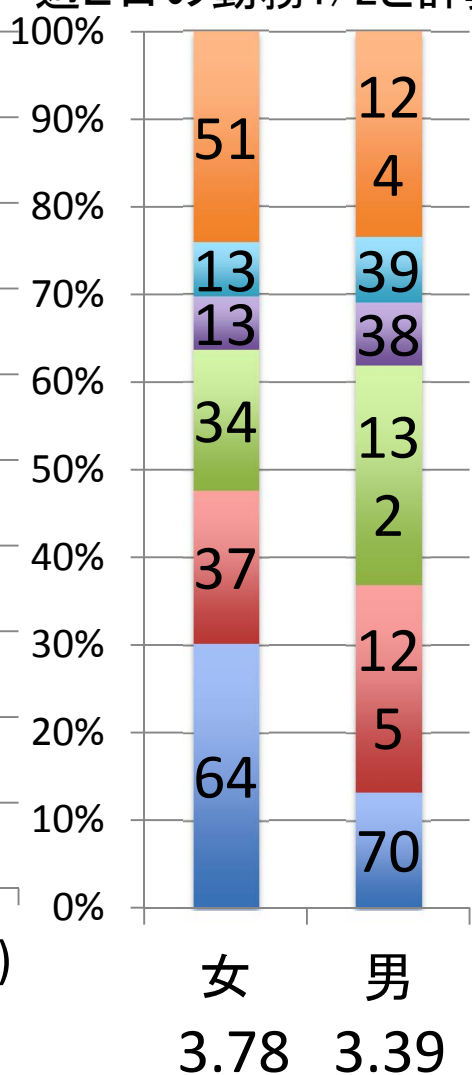
学会参加点数を
症例報告で置き換える



単位認定TV
講演会要望



週3日の勤務は3/4,
週2日の勤務1/2と計



専門医資格：更新期間（5年）

資格維持のための点数：50点

- － JCR総会 1回出席は必修（10点）
- － 安全のための講習1回

資格維持のための経験症例：20症例

- － 関節リウマチ/若年性特発性関節炎の症例 10 例
うち5 例以上はメトトレキサートで治療した症例
- － 関節リウマチ以外のリウマチ性疾患 3 例
- － リウマチ性疾患治療薬のリスクマネージメントを経験した症例 1 例を含む。
- － 整形外科的コンサルテーション、リハビリテーション、生活指導、在宅ケアを要した症例 1 例を含む。
- － 他の申請者との症例の重複は認められない。また、患者個人情報に十分に留意する。

専門医資格維持細則より

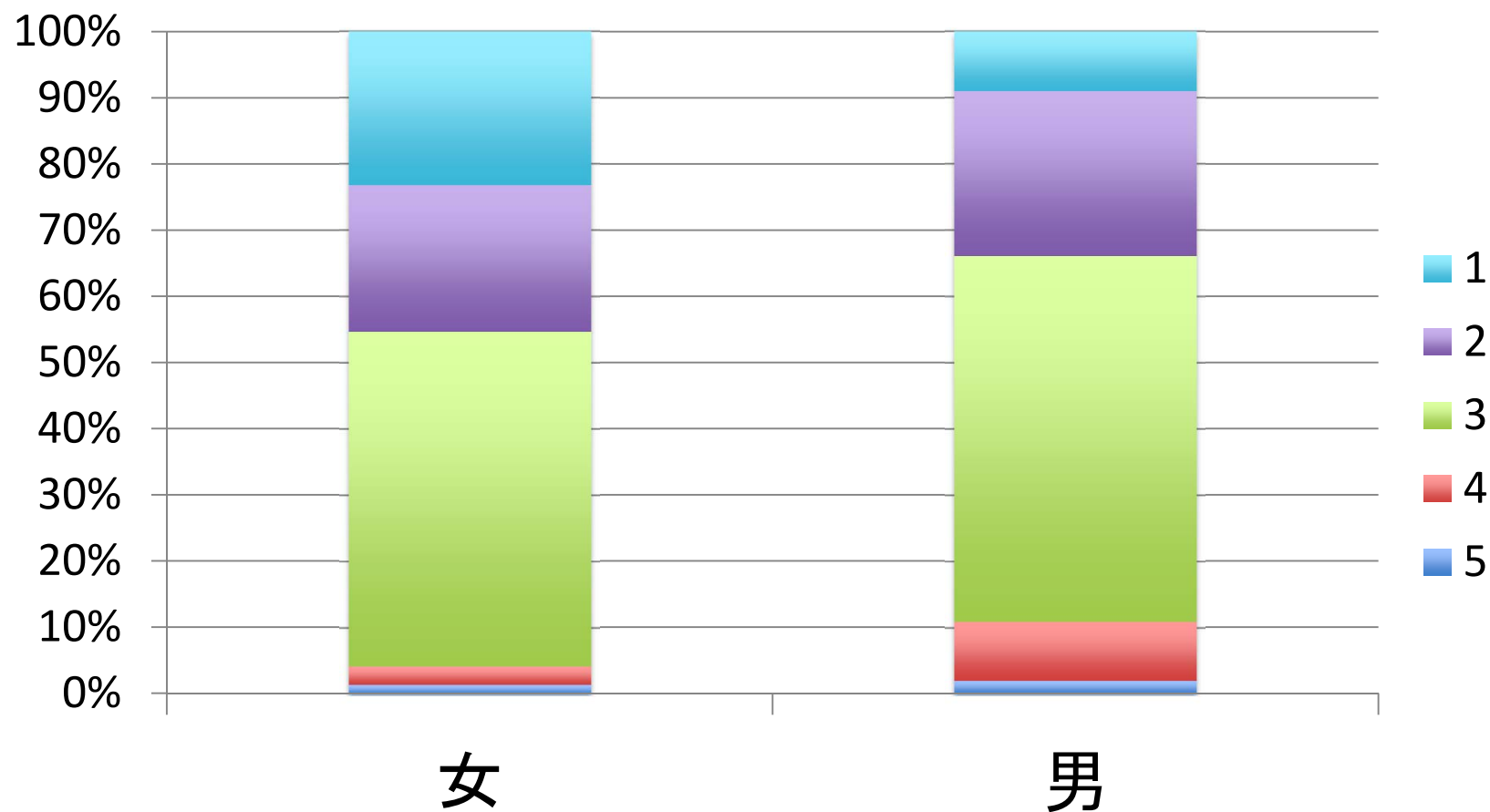
- 1.認定更新の保留を申し出て、翌年度に再申請することができる。保留期間は1年とし保留期間中は専門医を呼称することはできない。(この間は「専門医」ではない。)保留期間の1年が経過した後も、なお50単位が取得できない場合は専門医の資格を喪失する。なお、資格喪失後、再度専門医になるためには、専門医資格認定試験を改めて受験し、合格しなければならない。
- 2.海外留学または病気、出産等で単位の履修ができない特別の事情がある場合は、それを証明する書面を添えて認定更新の有効期間(5年)の延長を申請することができる。延長期間は最長5年までとする。(認められた場合は、この間は「専門医」とする。)延長後の更新は、前号に準じて行う。

育児でも専門医として活動し、勉強し続ける環境整備が重要

男女共同参画

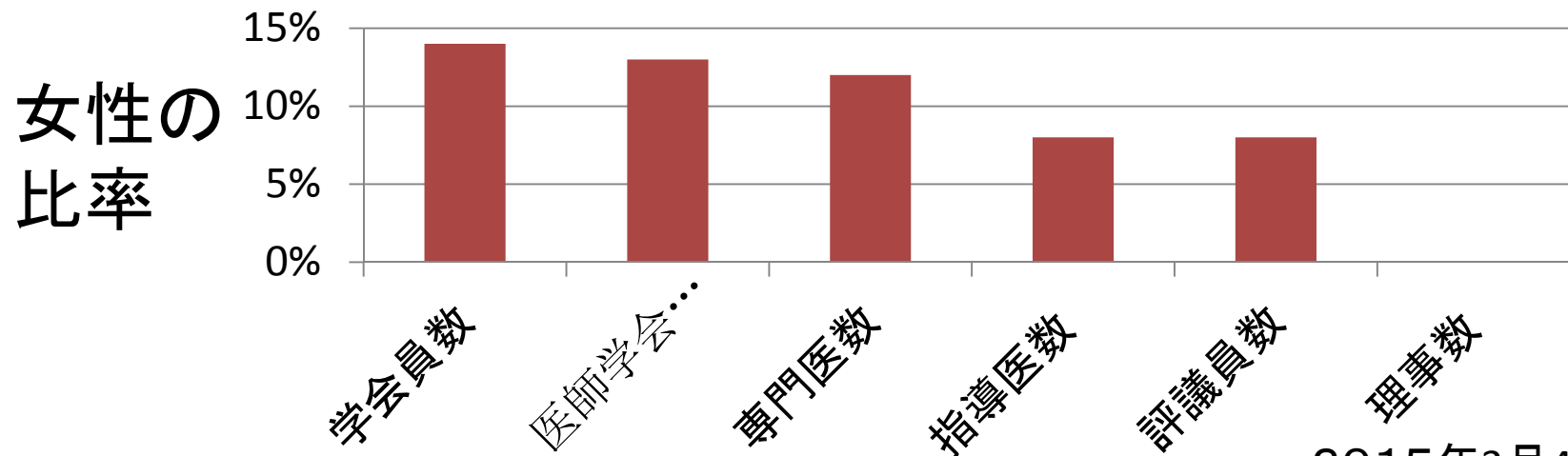
学会における女性の地位

質問30 女性医師の意見や要望は学会に十分届いていると思いますか？の強度
(数値が高いほど強く思う)



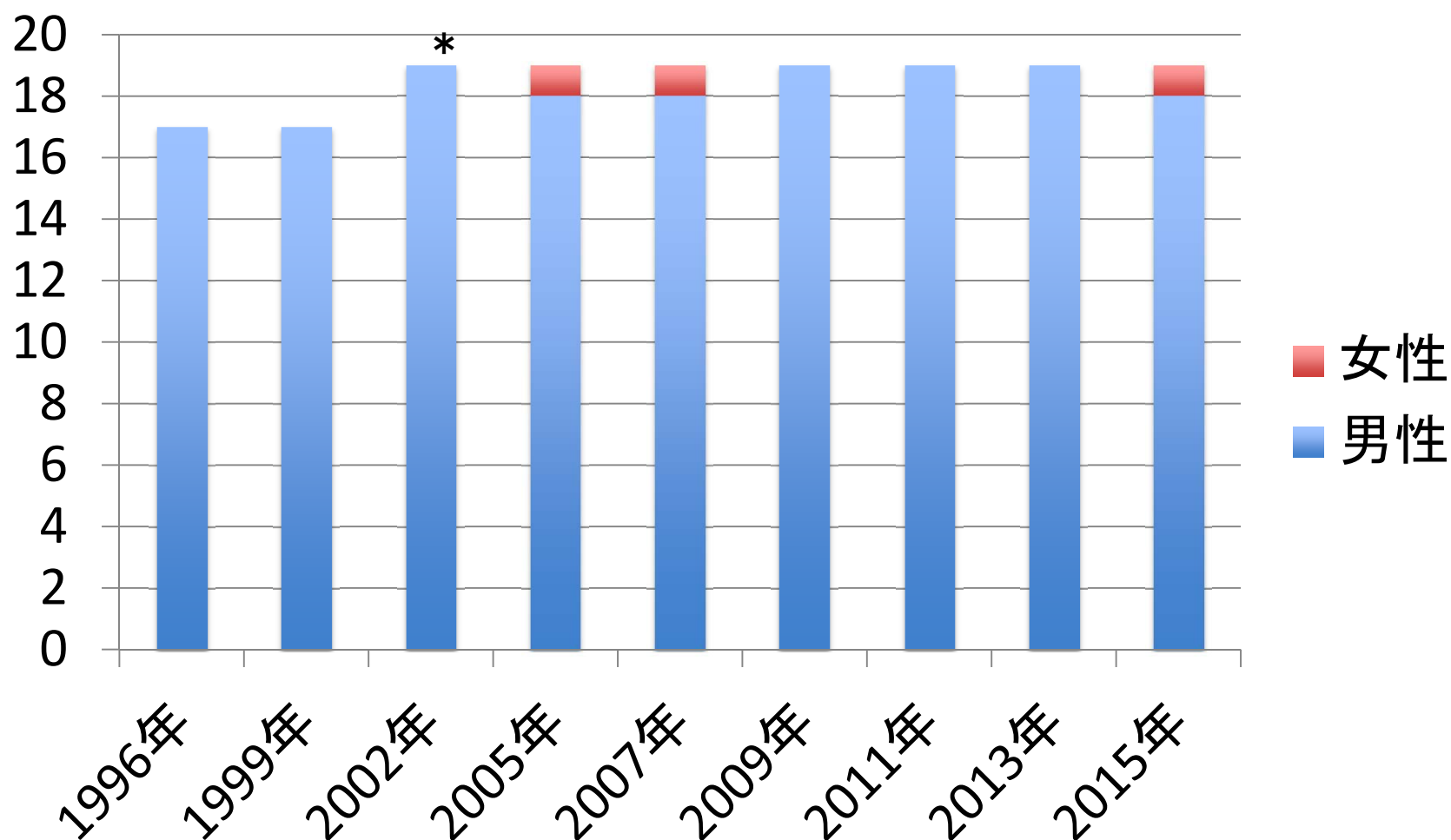
日本リウマチ学会 会員/専門医/役員の男女比

	総数	男	女	女性の割合
学会員数	9584	8246	1338	14%
医師学会員数	9211	8053	1158	13%
専門医数	4732	4144	588	12%
専門医取得率		51%	51%	
指導医数	1138	1048	90	8%
指導医取得率		13%	7.8%	
評議員数	918	848	70	8%
評議員の割合		10%	5%	
理事数	19	19	0	0%



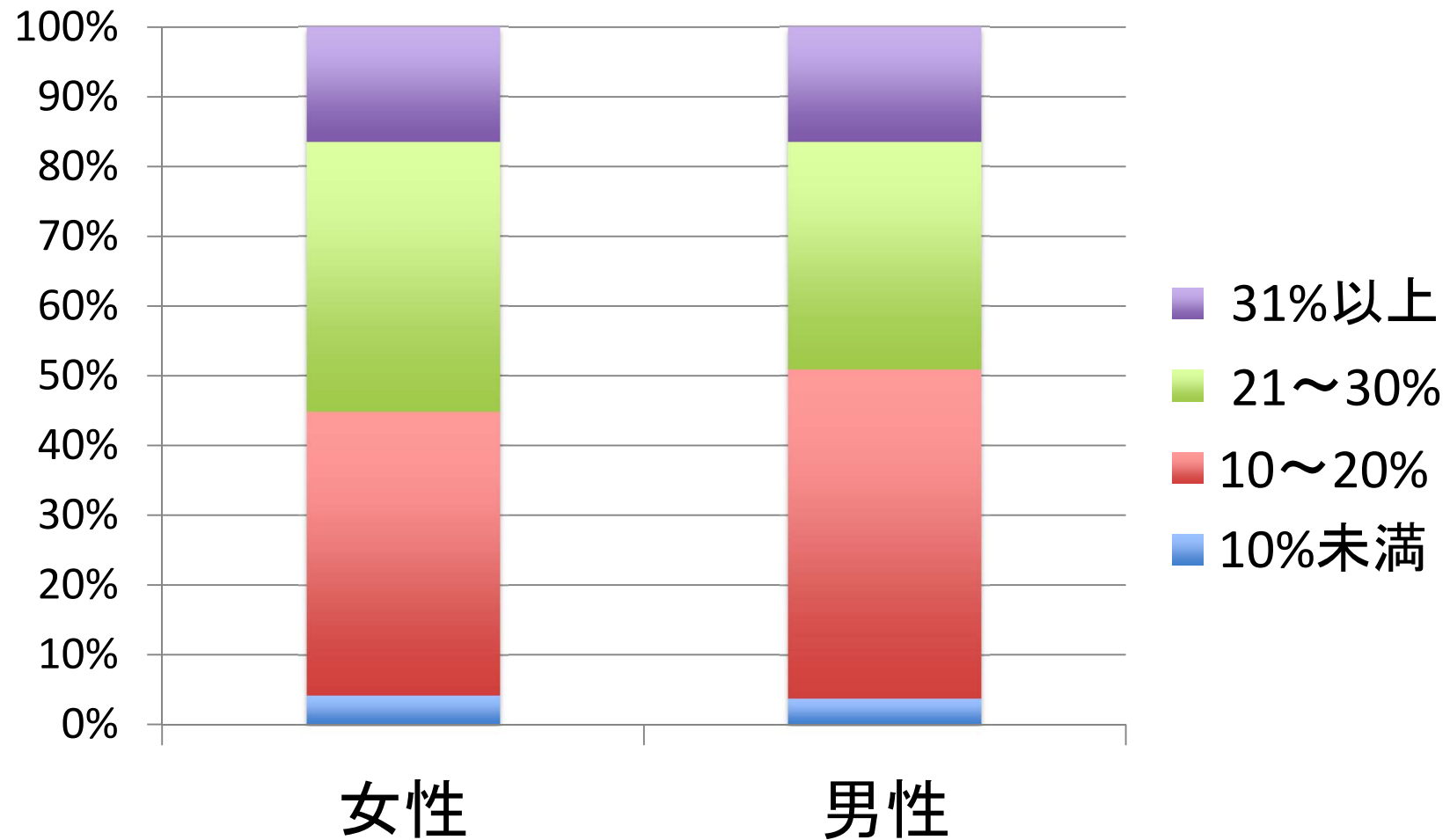
2015年3月4日現在

日本リウマチ学会理事男女比

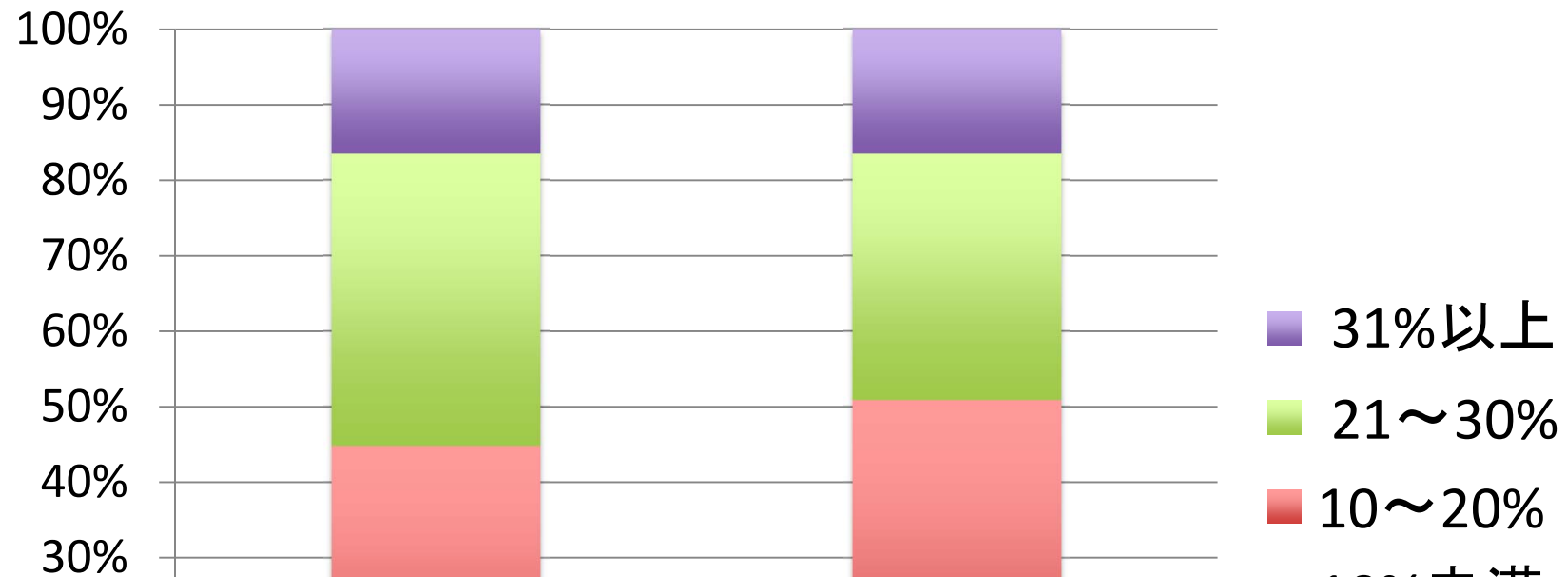


* 監事男性1女性1

質問31 評議員や理事の女性医師の割合としてどのくらいが適切とお考えですか？
日本リウマチ学会員数の14%が女性です



質問31 評議員や理事の女性医師の割合としてどのくらいが適切とお考えですか？
日本リウマチ学会員数の14%が女性です



女性役員を増やすべきとする意見も多いものの
定数化する事に関しては反発/反対の意見も複数あり

男女共同参画アンケートまとめ

- リウマチを専攻して学問的／臨床的に満足度を強く感じている人が男女とも多かった。
- 女性医師は男性医師に比べ、卒後11-25年でフルタイム常勤の割合が低く、非常勤、短縮勤務、休業、等の割合が高かった。
- 女性医師の方が、勤務形態と性別／家庭の状況を意識しているものが多かった。
- 女性が男性と同等にキャリア形成ができていると考える人よりそうではないと考える人の方が男女共おおかった。原因として、育児による制限、ロールモデル不在、上司からの評価や期待の低さを理由と考える者が多かったが、男性27%、女性も20%が責任感・使命感の不足を上げていた。
- 学会／専門医制度に望むことに関しては現状とアンケート結果を考え今後の課題である。

JCR 女性会員支援推進小委員会 アンケート調査

日本リウマチ学会女性会員支援推進小委員会

- 阿部麻美(新潟県立リウマチセンター)
- 窪田綾子(東邦大学医療センター大森病院整形外科)
- 中川夏子(甲南加古川病院リウマチ膠原病センター)
- 中島亜矢子(東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター)
- 原岡ひとみ(日本大学医学部血液膠原病内科)

アンケートにご協力いただいた学会員の皆様に

感謝申し上げます

- 村島温子(国立成育医療研究センター)

国立成育医療研究センター母性内科

- 金子佳代子

協力 日本リウマチ学会事務局